



訓點
讀法

庭訓往來證注大成

全



永井如瓶子編
山崎美成刪補



庭訓往來證注全

首書繪抄

江都書肆

訓點讀法

榮久堂發兌

往來者猶消息。謂音信也。消言往也。事已往故消。息言來也。使無所求故曰息也。抑庭訓往來者。元弘中僧玄惠所作也。其體擬月儀之書牘。而從時依事以錄人事日用之名物。讀之尚可多識於鳥獸艸木之名。先是有雲州消息。爾後雜筆尺素等之往來。不為不多矣。雖然庭訓之書特行于世。童蒙常記誦以為小學之一助焉。嘉永四年歲在辛亥夏五月日北峰成識于好問堂東窗之下

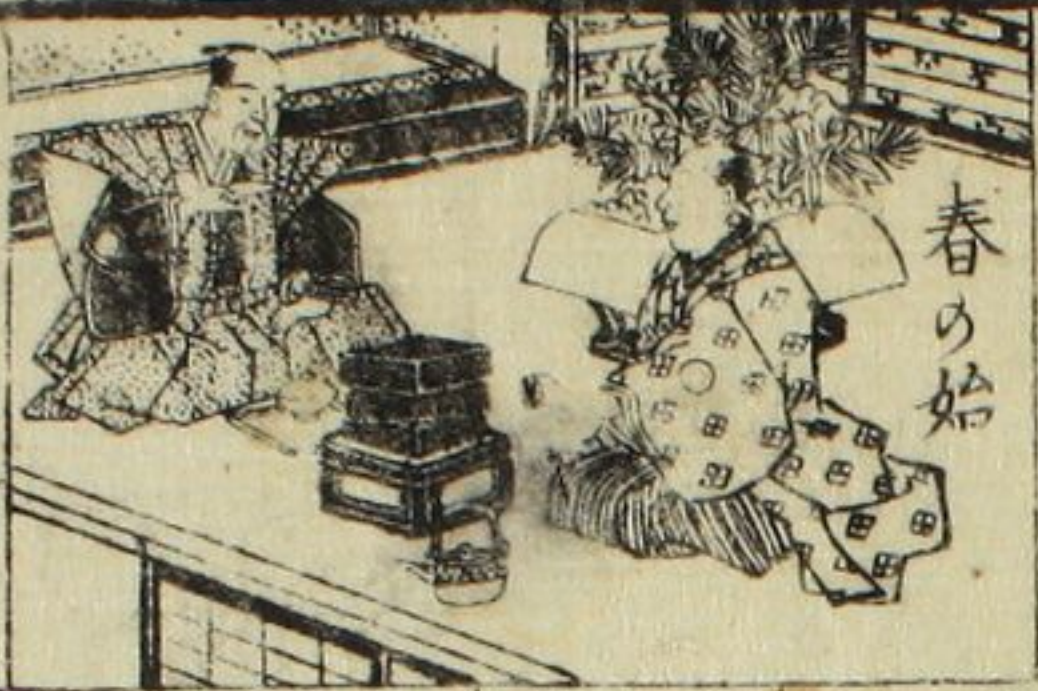
庭訓往來と古來より考せしめられり文安四年下学集の序より
 庭訓新考の往來といふこと見え又朝鮮の經國大典といふ書の
 倭字の條小庭訓往來應永記新考富士といふことありて
 倭せかりといふ書よりやく世に流るることあるなり
 此書流布已久ありて写本汗本各異同あり然れども言ひま
 りありといふを詳しして且中より永井如瓶子の徳抄大成といふ
 のあることを見れば安富翁も扶養と化してその闕漏を補ひ
 りされど今於御刪補して名をつけて證注大成と云
 辨顯しとあやまるもの少くは故に今漢法と云ふ一真字小頭書と
 して幼童とて會得し易うして更ふその間小畫圖を加へ
 證解の意と助くるなり

奉亥夏日

北峰成再識

庭訓往來證注大成

庭訓往來證注大成



春の始の御悦
 貴方小向て先
 祝ひ申し候ひ
 畢ぬ富貴万福
 猶以幸甚幸甚

庭訓ハ論語季氏篇云陳亢問於伯魚曰子亦有異聞乎對曰未也嘗獨立鯉趨
 而過庭曰學詩乎對曰未也不學詩無以言鯉退而學詩他日又獨立鯉趨而
 過庭曰學禮乎對曰未也不學禮無以立鯉退而學禮云鯉ハ孔子の弟なり
 あり時孔子ひさし庭に立居る時鯉の對する孔子の弟なり
 禮と學びし人として禮と學びし人なりと云ふことありて故に
 云ふ云ふ是れ幼童小物と云ふを庭訓といふなり○往來といふは
 義なり一書かこ小姓
 一書かこ小姓の義なり

春始の春ハ二月ハ春の始なり
 貴方小向て先祝ひ申し候ひ畢ぬ富貴万福猶以幸甚幸甚

春始の春ハ二月ハ春の始なり
 貴方小向て先祝ひ申し候ひ畢ぬ富貴万福猶以幸甚幸甚



朝拜

抑歳の初の朝拜者朔日元三之次と以急ぎ申す可き之處人の子の日の遊小驅催と被る之間思ひ乍延引以谷の鶯橋の花と忘れ



遊の蝶の日の影小遊ぶ小似頗本意小背き候ひ畢ぬ

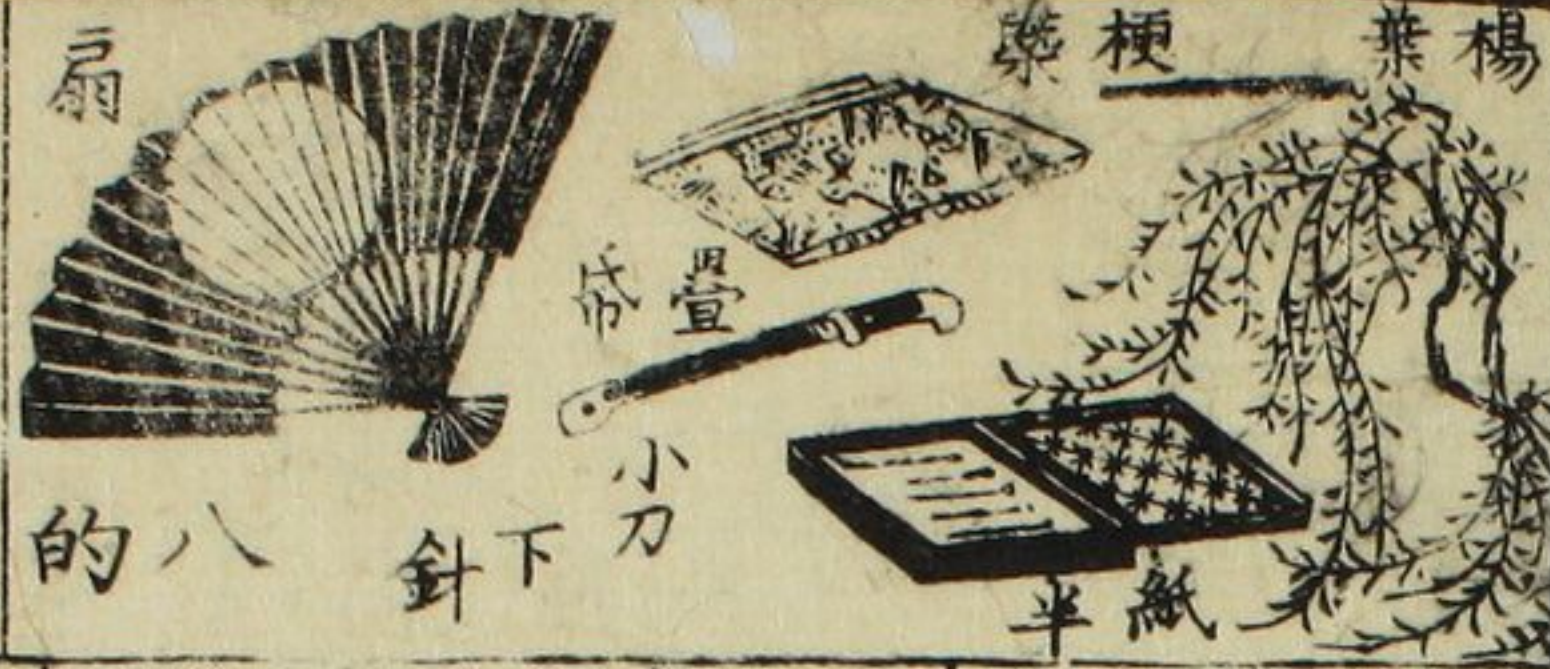
辰言言言

春陽の初... 貴方ハ宗教の初... 次可急中... 世思延引... 祈願宵本... 即避席再拜諷云云

宇多帝の... 朔日ハ公事... 朔日ハ元朔... 朔日ハ元朔... 朔日ハ元朔... 朔日ハ元朔...

上庭川登主

尋常の射手馳
挽の達者少
御誘引有て思
食立給ハ者
本望也心事多
一 雖參會之
次と期せんが
為委く厨毫小
能ハ不恐恐謹
言



正月五日
左衛門の尉藤
原の知貞
謹上
石見の守殿

御つ〇 徑管いさういさじとあり侍候しつゝ此の字
ちう上たつて御の射礼世に打つてこそめいさうむと
此書村

手宛達者少く有て誘引思合と奉
る事也心事多

不能厨毫忌謹上

〇 為奉、上子の射子なり尋
常の二字とよつて御書れ

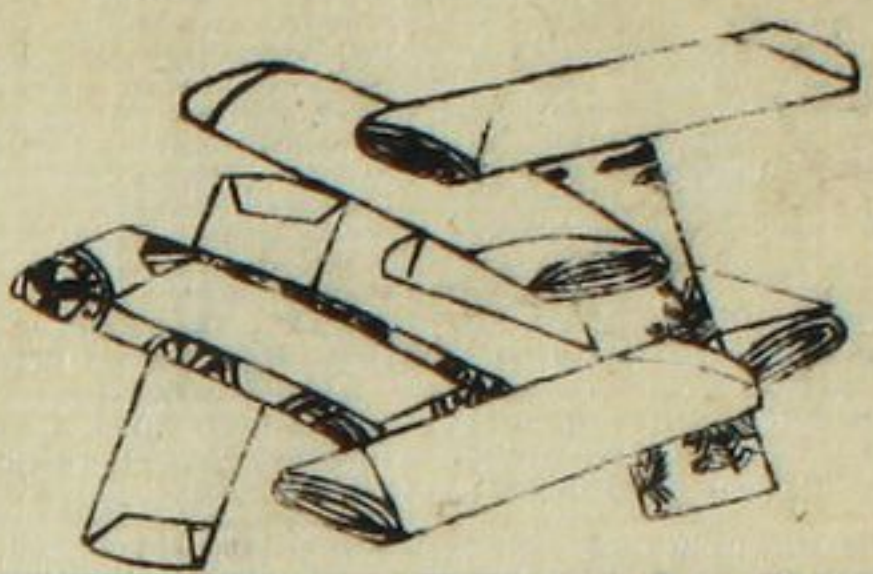
人小すれ、さういさじとあり侍候しつゝ此の字
ちう上たつて御の射礼世に打つてこそめいさうむと
〇 此書村
手宛達者少く有て誘引思合と奉
る事也心事多
不能厨毫忌謹上
〇 為奉、上子の射子なり尋
常の二字とよつて御書れ

とうつらぬ中、さういさじとあり侍候しつゝ此の字
ちう上たつて御の射礼世に打つてこそめいさうむと
〇 此書村
手宛達者少く有て誘引思合と奉
る事也心事多
不能厨毫忌謹上
〇 為奉、上子の射子なり尋
常の二字とよつて御書れ

正月五日 左衛門尉藤原知貞

謹上 石見守殿

庭川燈主



給状

何事候 何事

何事候 何事

何事候 何事

何事候 何事

何事候 何事

何事候 何事

○三月廿八日、書より武内宿禰の書に、古法に依りて紙の寸法、
 の行、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 の寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 二寸八分、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 宿禰、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 少尉、五位上、相當、唐名金吾校尉、○後、天智天皇八年、内大臣
 鎌足連始賜藤原姓、○澄、六澄、上書、事、未、代、不、用、澄、上、中
 下に、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 澄、上、中、下、澄、上、中、下、澄、上、中、下、澄、上、中、下、
 出、時、八、編、舟、宿、禰、の、寸、法、その寸法、その寸法、その寸法、
 紙、の、寸、法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 を、上、の、寸、法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 何、の、寸、法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、
 才、一、般、才、二、般、才、三、般、才、四、般、才、五、般、才、六、般、才、七、般、才、八、般、才、九、般、才、十、般、才、
 出、時、利、人、本、れ、る、寸、法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、その寸法、

改年古慶被任河老作之條先旨

此考定作自他公事者音

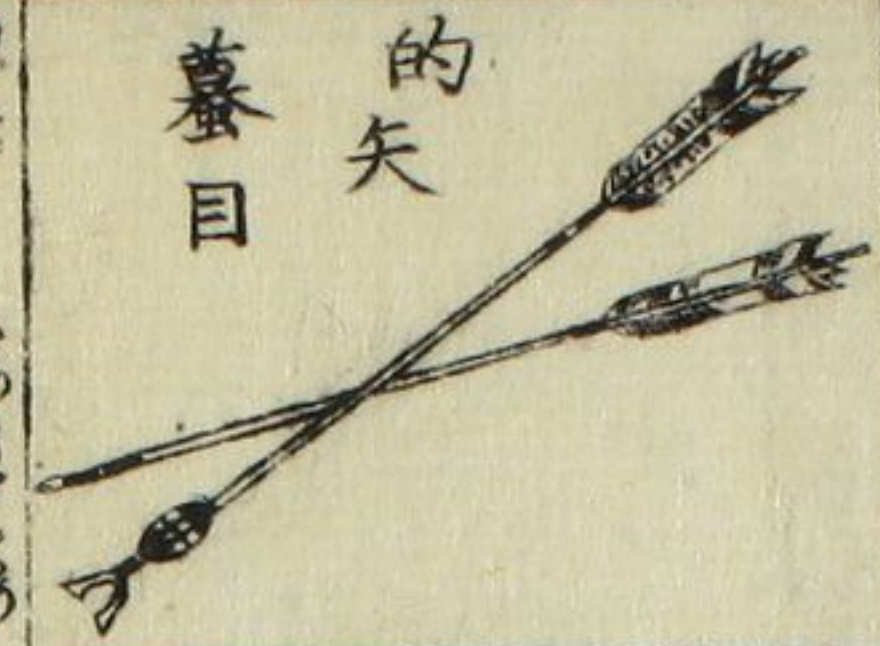
○被任古慶、河老作、之、條、先、旨、
 目出度、覺え、候、
 小自他、の、嘉、幸、
 千万、千万、
 改年、の、吉、慶、御、
 意、小、任、せ、ら、被、
 候、之、條、先、以、
 目出度、覺え、候、
 小自他、の、嘉、幸、
 千万、千万、
 改年、の、吉、慶、御、
 意、小、任、せ、ら、被、
 候、之、條、先、以、
 目出度、覺え、候、
 小自他、の、嘉、幸、
 千万、千万、

河老作被任之考定陽於宴候條



河老作被任之考定陽於宴候條

殊に珍重しんじゆう候こう
ハ堅凍けんとう早く脱だつ
薄霞はくさ忽ち披ひ
即拜仕いそがしと促うながす
可よき之の處ところ自他みづか
の故障こぼ不慮ふりょ之の
至いたり也なり



的矢 墓目

百手の達者究ひゃくて
竟さの上手う一兩いちりやう

輩同道はいどうせ令可せいのう
さ也但さも一的矢いつてき
墓目等むまひらハ沙汰さた
無憚むたんり入候いりこうふ

一種一瓶者衆いちゆい
中の課役賭引ちゅうのくわやく
手物者亭主てぶつもの
奔走ほんそう嶽内内御たけうち
意得いとら被可い
萬事物ばんじぶつ忽之間い
一二いちに及およむ不ず
併面謁之時へいめんぎやく
期才恐恐謹言きさいおそおそ

一風言請言

作堅凍早既薄しんじゆう慮忽披りょ不ず慮りょ披ひ不ず慮りょ披ひ
重おも如ごと此の方かた俗ひん云い安置言珍重あんじ
即すな是なり囉ら云い善加保重也ぜんか

○遊宴ゆゑんハ遊あそび宴いんハさうじのしつじつ揚あ
○秋氏あきうぢ要賢いんげんハ秋氏あきうぢ相見あひま將退あきうぢ即すな口くち珍めづ
重おも如ごと此の方かた俗ひん云い安置言珍重あんじ
即すな是なり囉ら云い善加保重也ぜんか

究竟けうけつ上じやう下げ一いち而に兼かね是なり令同道せいのう也但さも一的矢いつてき

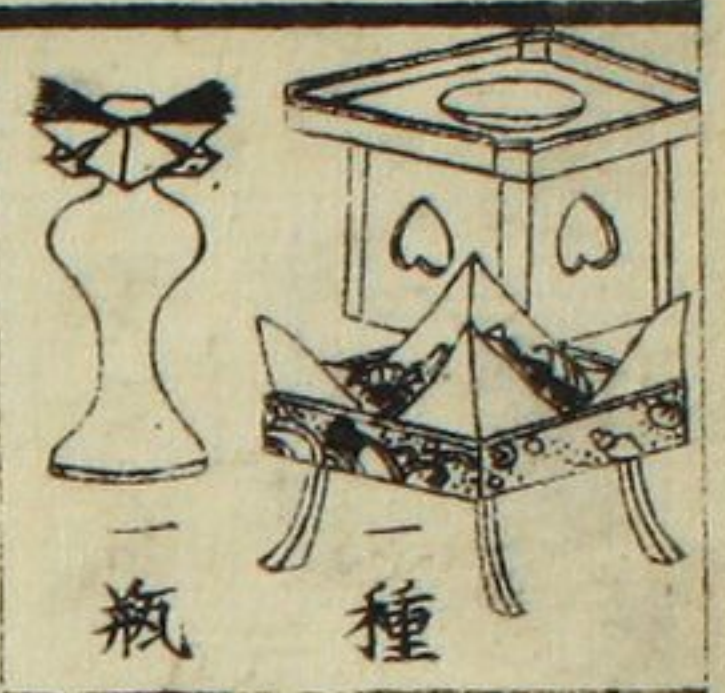
墓目むまひ沙汰さた採入さいにゅう作しやく
由基楚將善射去楊葉百ゆきそしやうぜんしやく

○究竟けうけつハ下げ學集がくしゅう云い早はや竟さ之の最も也なり一いち道みちとひひつつふふののて
一いち種しゆ

一瓶者いちゆい元中課役賭引げんちゅうくわやく
手物者亭主てぶつもの奔走ほんそう嶽内内御たけうち
意得いとら被可い
萬事物ばんじぶつ忽之間い

不及いふく一二いちに侮あやむ面謁めんぎやく之時のとき謹言きんげん

○一いち種しゆ
○一いち種しゆ



正月六日

石見の守中原

謹上

源左衛門の尉

面拜之後中絶

良久遺恨山

の如く何時

の意霧を散す

可くん哉併胡

庭言諸言
○此の御成りたる有枝敷と云ふは、
○亭の宿りの世二字佛と云ふは、
便去後不常住掌亭人無所去名為亭書○
○此の御成りたる有枝敷と云ふは、
○亭の宿りの世二字佛と云ふは、
便去後不常住掌亭人無所去名為亭書○

正月六日

石見守中原

後上 源左衛門の尉

面拜之後中絶良久遺恨山

の如く何時の意霧を散す可くん哉併胡

漢書張堪傳良久嘆息良猶其也云々

○此の御成りたる有枝敷と云ふは、
○亭の宿りの世二字佛と云ふは、
便去後不常住掌亭人無所去名為亭書○

抑醍醐雲林院

の花濃香芬芬

として勻已盛

也嵯峨吉野の

山樹閑落條と

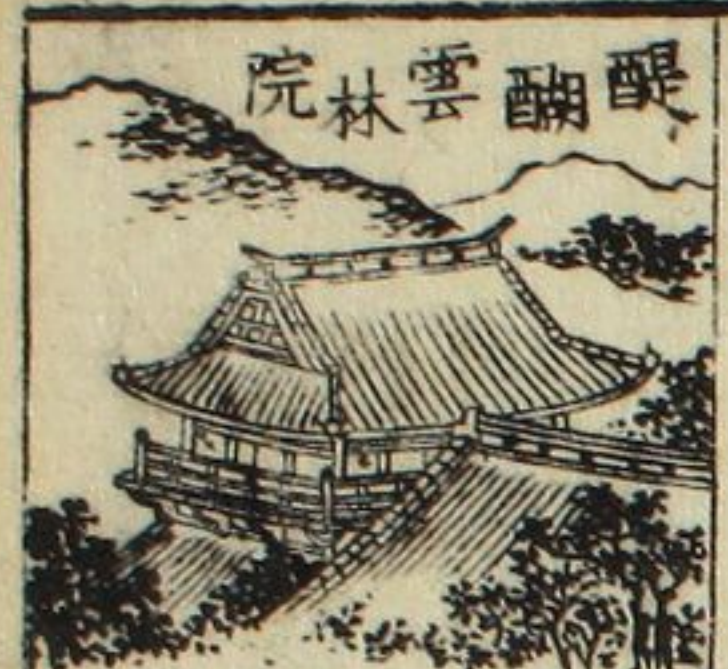
交へ其梢繁

黙止難き者此

節也争徒然と

而光陰と送

らん哉



抑醍醐雲林院の花濃香芬芬として勻已盛也嵯峨吉野の山樹閑落條と交へ其梢繁黙止難き者此節也争徒然と而光陰と送らん哉
書れ小然もこのころに...
○此の御成りたる有枝敷と云ふは、
○亭の宿りの世二字佛と云ふは、
便去後不常住掌亭人無所去名為亭書○
○此の御成りたる有枝敷と云ふは、
○亭の宿りの世二字佛と云ふは、
便去後不常住掌亭人無所去名為亭書○
○此の御成りたる有枝敷と云ふは、
○亭の宿りの世二字佛と云ふは、
便去後不常住掌亭人無所去名為亭書○

花の下の好士
諸家の狂仁雲
の如く霞ふ似
るり遠所之花
者乗物僮僕合
期一難一先近
隣之名花歩行
之儀と以思ひ
立つ事小候小
左道之様為り
と雖異體之形
と以明後日歩
同心候ハ者本
望也



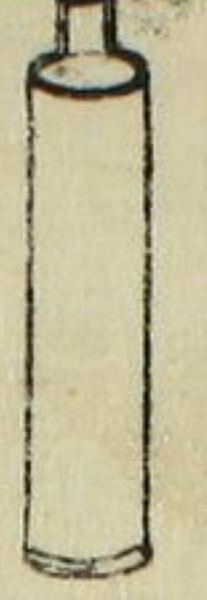
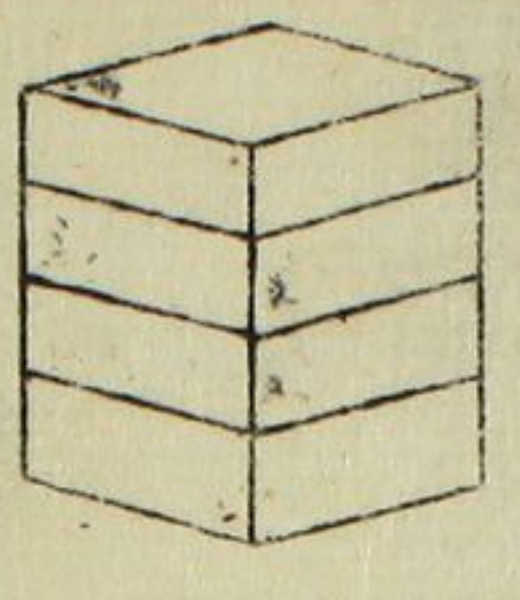
花下好士

連歌の宗匠和
歌の達者一兩
輩脚誘引有る
可一其次と以
詩聯句之詠同
く所望小候ふ
破籠小竹筒等

らんや 花下好士法家狂仁如雲似霞遠
所こむる乗物僮僕合期之近隣
之名花歩行以思之乗物佐左
道之様以全體形の時後日歩同心
ふ也
○花下好士の行方の人となり○法家狂仁の乗物に於て
花下好士の行方の中は後世の如く其妻のこころのけしきとて
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の

江國衛文云撫民治國致合期之勤云東鑑云進退味合期云
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の
おのころうり又後世の如くお花下好士の行方の中は其妻の

著是自隨身
可一視懷紙等
者懷中せし被
可き欵如何心
底之趣紙上小
盡一難く候ふ
併参会之次第
期に不具謹言



破籠 小竹筒



懷紙

筆

二月廿三日
彈正の忠三善
謹上
大監物殿

唐の秘録を後上在傳の未會之次

不具謹言

○連発の在東葉平の伊勢の秘録の未會之時
被言より出づる一函のさしふらち人のこれ
られぬをいひわれど書て出づる一函の業平秘録を四つおねのすまふ
又わら坂の園の誠をんとつけすふらぬや秘録の初をいふと宗徳の
とぞ ○宗徳の先達の秘録をいふ ○秘録の初をいふと宗徳の
いふこのありていふとていひあふもいふとていふとていふとて
ハす所のこのことよりぞかかるといふとていふとていふとて
もさだまらばいふとていふとていふとていふとていふとて
このことよりぞかかるといふとていふとていふとていふとて
このことよりぞかかるといふとていふとていふとていふとて
の秘録をいふとていふとていふとていふとていふとて
いふとていふとていふとていふとていふとていふとて
○傳録の文苑彙編卷十二云詩者心之所之也在心為志
言為詩詩之起于夏侯湛四言起于楚王成五言起于蘇武李陵

六言起于谷永七言起漢武帝使羣臣為柏梁臺詩而其源則起于三
百篇也又書經舜典云詩言志歌永言云又古今制作原始云舜歌
南風詩此作詩之始云南風の傳ハ傳經小見をいふ又春秋
天智天皇の御子大友皇子弟小天皇天皇の御子大津皇子皆作文と
秘録を日本にすむの秘録をいふ ○聯句ハ九韓文と始とすうら唐文
宗の向小人皆苦炎熱我愛夏日長と云れハ柳公權唐文に
薫風自南來殿閣生微涼とつけり ○隨身身に在る秘録をいふ
わくまらざるの秘録 ○不具我より伝下る人小用る秘録下等集
小不具ハ秘録の秘録と云り監物ハ
彈正の忠三善の御子也

二月廿三日
彈正の忠三善
謹上
大監物殿

○彈正の忠三善の御子也 ○大監物の御子也 ○唐文の御子也

是自申之令れんと欲する之處遮而息問預り御同心之至り多少之嘉會也抑花の下之會の車花鳥風月者好士之學所詩歌管絃者嘉齡延年之方也御勸進之體本懐小相叶い候者哉後園庭前之花

欲自是令申之處遮る御意問預り公之至り多少之嘉會也抑花の下之會の車花鳥風月者好士之學所詩歌管絃者嘉齡延年之方也御勸進之體本懐小相叶い候者哉後園庭前之花

深山叢樹之櫻誠小以開敷之最中也若今明之際暴風霖雨有ら者無念之事也同者片時も急ぎ度く存せ令しる所也

深山叢樹之櫻誠小以開敷之最中也若今明之際暴風霖雨有ら者無念之事也同者片時も急ぎ度く存せ令しる所也

敏達天皇御宇家門依有樹樹為標本氏云又

詩聯句者菅家江家之奮流と汲く乍更小序表賦題傍絶韻声之質と忘ま

後日之恥辱 菅家の始祖は天徳日命... 菅原の始は後十世の... 菅原の始は後十世の... 菅原の始は後十世の...

猿 似人



文徳源和の物語の侍従とて... 菅原の始は後十世の... 菅原の始は後十世の... 菅原の始は後十世の...

延川 登注

無き之條先以
神妙之由御感
候也

之に就き四至
傍示の境阡陌
聊他所小混乱
せし被可
不精廩之沙汰
と致と被る之
條奉公の忠勤
也



厨梳飯相違無
く者早く沙汰
人等小課せて
地下の目錄取
帳以下の文書
濟劍納法之注
文悉召進せ

庭訓證註

て際限のさうしつゝ際限さきうきうきうとよむきうきうとせう
きうきうきう ○抄の結末生後と輝とと茶と結んで後の文と結んで
生ずるの 然之田五傳小坑阡陌被
粹なり

混乱阡陌被精廩沙汰之條奉公

忠勤也 ○四至、五一方より四方の境之傍示、阡陌の境小後景
北の所東西又市中街阡陌 ○混乱、まじりまじりなり ○精廩
ハ糶ハまじりけしむと合つきの米ハ糶ハ直しくするなり ○糶ハ
まじりけしむと合つきの米ハ糶ハ直しくするなり ○糶ハ

沙汰去其細而存其大曰汰云々 ○沙汰江河濁 集註沙汰以篩貯
するに百官の車理を明かすに沙汰と沙汰と云々非混乱と云々
まじりけしむと合つきの米ハ糶ハ直しくするなり ○糶ハ
の糶ハまじりけしむと合つきの米ハ糶ハ直しくするなり ○糶ハ

厨梳飯相違無く者早く沙汰人等小課せて地下の目錄取帳以下の文書濟劍納法之注文悉召進せ

厨梳飯相違無く者早く沙汰人等小課せて地下の目錄取帳以下の文書濟劍納法之注文悉召進せ

厨梳飯相違無く者早く沙汰人等小課せて地下の目錄取帳以下の文書濟劍納法之注文悉召進せ

厨梳飯相違無く者早く沙汰人等小課せて地下の目錄取帳以下の文書濟劍納法之注文悉召進せ

厨梳飯相違無く者早く沙汰人等小課せて地下の目錄取帳以下の文書濟劍納法之注文悉召進せ

被可也容
隱之輩隱田之
族ハ罪科の為
小交名と注進
せり被可



且東作業之事
兼て水旱之年
と相須て腴
迫之地と計り
所務と致と被

閑作す可き之
地有ら者農人
と招き居て之
と閑発せ令り
用水之便小任
可きに於者
土民之役と為
て堤井溝と修
固す可き也
佃御正作之勤
農ハ迫地と除
き熟田と撰ひ
急き種子農料
と下行せ令り

反言書言

一ハ清水と林ハ鹿野とつぎて鹿ハ軍政之を以て法内鹿アハ
厨ハ責任之所とて煮焼するもさしと鹿ハ鹿野と云
云月武家出仕也云々此後云々或人云抗飯食ふとす
とらうと云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
わく法司官人云々云々云々云々云々云々云々云々云々
違ふ漢云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
人約と記し云々云々云々云々云々云々云々云々云々
の法好の云々云々云々云々云々云々云々云々云々
○徳法ハ教貴徳の法云々云々云々云々云々云々云々
るはの云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
○徳田ハ
田島以徳と云々云々云々云々云々云々云々云々云々

且東作業之事兼て水旱之年と相須て腴迫之地と計り所務と致と被

早に年頃計腴迫地は及ぶ所務有可

閑地は及ぶ所務有可

任用ありて及ぶ所務有可

漢也 ○東作業ハ耕化の云々史記堯本紀云敬道日出便程東作正義云三春主東故言日出耕作在春故言東作云々 ○速迫ハ或は云

速迫也速迫也云々云々云々云々云々云々云々云々云々
不と傳ふせ云々又肥之字刻の字彙も不見但速ハ膏腴の腴の字を
替へて○傳固ハ修訂一固も云々云々云々云々云々云々云々
と相しその上肥地瘦地と終くも云々云々云々云々云々云々云々
るべき地あり農人とすれはすて是とひ云々云々云々云々云々云々
使ふしれんふんハ云々保せて地井漢と修訂云々云々云々云々

佃御正作之勤

農ハ迫地と除き熟田と撰ひ急き種子農料と下行せ令り

閑作す可き之地有ら者農人と招き居て之と閑発せ令り用水之便小任可きに於者土民之役と爲て堤井溝と修固す可き也

子若料恒御御利梨木農具令耕化獲

精早摘晚稲亦後雨収可於春法既

一五川登主

一五

奉行早く四方
小大堀と構へ
其内小築地と
用意す可棟
門唐門者斟酌
之儀有り平門
上土門藥醫門
之際於之と
相計らふ可
寢殿者厚萱葺
板庇の廊中門
渡殿者裏板葺
侍御厩會所圍
爐裏之間學文

奉行早く四方構へ
北極門唐門者有斟酌儀於平門上
土門藥醫門之際於之
寢殿者厚萱葺
板庇の廊中門
渡殿者裏板葺
侍御厩會所圍
爐裏之間學文

所公文所政所
膳所臺所費殿
局部屋四阿屋
棧敷健兒所者
葦萱葺小丈度
大可也
南向小者笠懸
の馬場と通
堀と結を令り
同く的山と築
可東面小
者蹴鞠之坪と
構へ四本懸と

山金氏云斟酌俗語也如以勺取酒以入器而酌量其淺深也○棟門の堀と
○唐門の九拵儀と云○平門の廊の上小檼本と云○
○寢殿の儀と云は座敷より廊と云は人
○公文所
○政所の儀と云は座敷より廊と云は人
○膳所の儀と云は座敷より廊と云は人
○費殿の儀と云は座敷より廊と云は人
○蹴鞠の坪と云は座敷より廊と云は人
○馬場の儀と云は座敷より廊と云は人
○南向の儀と云は座敷より廊と云は人

南向の儀と云は座敷より廊と云は人

植多被泉水
立石築山遣水
眺望小任
方角小隨之禁
忌無之樣之
と相計ふ可
客殿小相續と
檜皮葺の持佛
堂禮堂と立つ
可一菴室休所
者先假葺也傍
又土蔵文庫と
構ふ可一其中
間ハ屏也後苑

の樹木四壁の
竹前栽の茶園
同調一殖の
可き也仰せ下
さ被る之條條
怠慢無く勤仕
せ被者忠賞
せ被可きの
旨仰せ所候
也恐恐謹言
三月七日
玄蕃の允平
御政所殿
仰せ下と被る

庭訓註

○庭訓註
○相續客殿
○眺望小任
○方角小隨之禁
○忌無之樣之
○と相計ふ可
○客殿小相續と
○檜皮葺の持佛
○堂禮堂と立つ
○可一菴室休所
○者先假葺也傍
○又土蔵文庫と
○構ふ可一其中
○間ハ屏也後苑

又據七卷又序其中心扇也後苑樹
本屋壁作方裁茶室同一調種也此他
下條之怠慢在勤仕と被忠賞之
名深作也此謹言

○庭訓註
○相續客殿
○眺望小任
○方角小隨之禁
○忌無之樣之
○と相計ふ可
○客殿小相續と
○檜皮葺の持佛
○堂禮堂と立つ
○可一菴室休所
○者先假葺也傍
○又土蔵文庫と
○構ふ可一其中
○間ハ屏也後苑

二月七日

玄蕃允平

御政所殿

被作下條之具必作平物不名等
困作也抑御下交治教書最平之間

庭訓註

條條具小以承
等閑と存す可
不候ふ也
抑御下文御教
書嚴重之入
部の使節異儀
無く彼所小益
心遵行せ令り
候ハ畢ハ

吉書ハ吉日良
辰と撰行せ令
耕作業の最

中也地下の文
書の事或紛失
或失墜錯乱之
由沙汰人等構
一申込小依
延引之條恐れ
入候ふ事之
實否又土貢の
員數等尋ね搜
了追て注進申
す可き也
次小作事者
梁柱長押棟木
板敷き材木者

庭川登主

入部使節の事其儀後致心令旨の事

○聊少く○等閑と存す可
不候ふ也
抑御下文御教
書嚴重之入
部の使節異儀
無く彼所小益
心遵行せ令り
候ハ畢ハ
吉書ハ吉日良
辰と撰行せ令
耕作業の最
中也地下の文
書の事或紛失
或失墜錯乱之
由沙汰人等構
一申込小依
延引之條恐れ
入候ふ事之
實否又土貢の
員數等尋ね搜
了追て注進申
す可き也
次小作事者
梁柱長押棟木
板敷き材木者

化業の中也地下文書事或紛失或

失墜錯乱之由沙汰人等構申延

引之條恐れ入候ふ事之實否又土貢員數

尋ね搜了追て注進申す可き也

次小作事者梁柱長押棟木板敷き材木者

庭川登主

次化業と初梁柱長押

棟木板敷材木者

庭川登主

二十

虹梁為之之間
 杜取の為小詠
 一令り候ひ畢
 門乃冠木扉
 の袋東唐居敷
 の板鼠走方立
 雲臂木懸魚墓
 任の木并小鴨
 柄鷓居垂木木
 舞破風蘭板飛
 檐の角木縁の
 短柱貫ひ子唐
 垣透塙紫垣菜
 塙檜垣杉の障

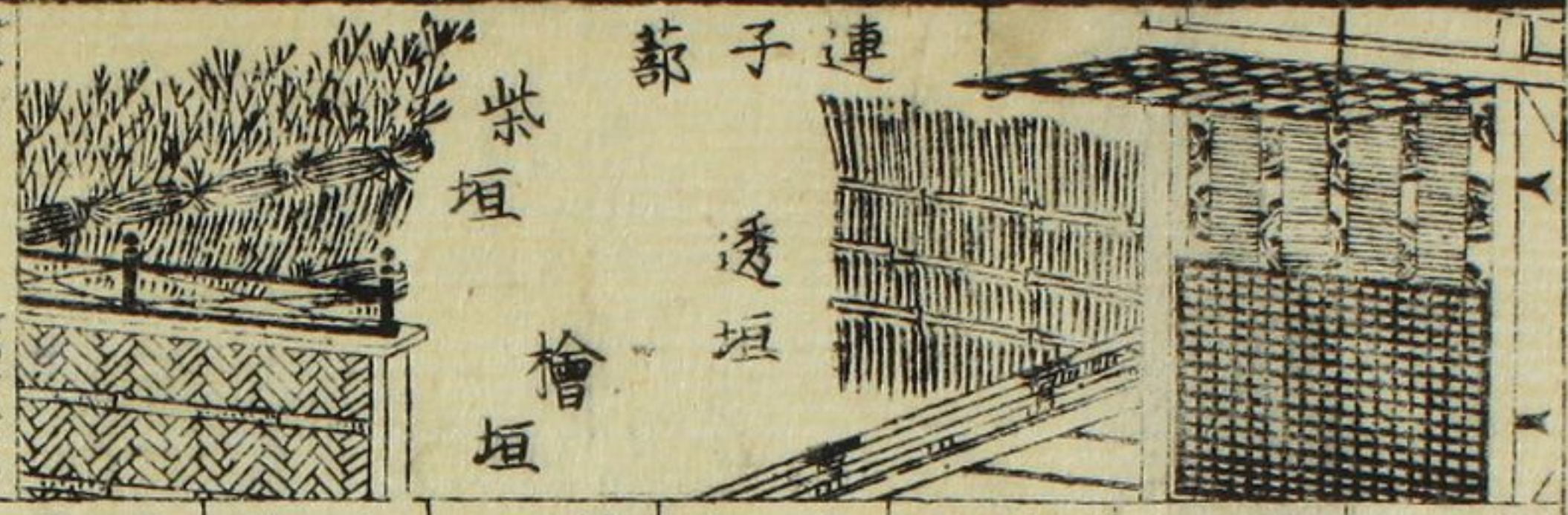
令池以年門冠木扉為東唐居為板
 氣乞方立雲臂木懸魚墓候木并
 鴨柄鴨居垂木木并板飛檜
 角木縁板檜子唐地透塙紫垣
 舞破檜板飛鴨居垂木木并
 短柱貫ひ子唐
 垣透塙紫垣菜
 塙檜垣杉の障

子厨子連子
 隔子連戸妻戸
 織戸決入高欄
 宇立杖首足堅
 天井の縁障子
 の骨棟樋組押
 の樽襲の木檜
 曾水門膏地の
 具足者津湊小
 於之と買ハ令
 ひ可
 方立

○長押、正字、承慶、唐居、板、門、の、左、右、有、
 素、盃、の、板、の、や、う、う、の、物、○、前、老、ハ、折、り、在、中、に、結、付、
 り、の、正、字、ハ、指、之、○、方、立、ハ、正、字、ハ、檜、う、う、○、熱、魚、ハ、蒲、吉、日、札、云、竹、板、
 尖、下、所、垂、之、物、○、鴨、柄、ハ、和、名、抄、云、見、干、の、程、式、本、文、未、詳、○、敷、居、を、
 一本、に、鴨、居、小、也、熱、魚、を、在、体、と、具、ハ、火、籠、と、除、の、敷、と、以、て、物、に、う、う、
 名、付、う、う、と、天、井、裏、候、鴨、柄、鴨、居、小、も、ふ、ふ、の、縁、○、金、木、ハ、正、字、檜、う、う、
 病、の、ち、う、う、ふ、り、う、う、の、縁、う、う、○、木、并、ハ、正、字、ハ、梳、也、字、彙、云、梳、ハ、連、
 檜、木、在、檜、之、端、者、○、破、風、ハ、竹、板、竹、板、を、同、古、抄、云、圓、板、ハ、破、風、小、あり、本、
 向、より、外、ハ、皆、縁、之、也、○、唐、地、ハ、ち、う、う、の、縁、り、縁、く、透、塙、ハ、竹、と、た、う、
 う、う、の、紫、垣、ハ、紫、と、他、う、う、の、縁、ハ、檜、の、板、垣、○、杉、障、子、也、
 依、抄、と、掲、小、也、ハ、非、之、字、彙、掲、字、下、に、掲、同、掲、之、掲、ハ、泰、う、う、長、檜、小、
 掲、ハ、石、積、り、飾、す、和、字、の、中、う、う、一、今、用、ひ、う、う、と、可、○、厨、子、ハ、障、中、
 う、う、檜、又、檜、と、掲、之、と、厨、子、云、字、云、小、厨、ハ、煎、餅、之、所、と、あり、その、あ、ふ、
 わ、る、棚、と、は、厨、子、棚、と、云、又、併、像、と、い、ふ、を、厨、子、と、云、ハ、以、義、小、わ、り、以、字、彙、
 小、厨、又、檜、也、と、あり、字、例、是、う、う、釋、氏、ハ、厨、子、と、い、傷、者、ハ、檜、と、云、○、連、
 子、細、木、と、云、わ、り、の、義、う、う、又、連、漢、も、う、う、連、ハ、う、う、と、云、是、も、水、の、縁、

連子藪

柴垣
檜垣



山造りの斧鑄
鉦鉦元小造作

の釘金物者炭
鐵と用意一鍛
冶と召一居
造ら令り候ふ
也木工の寮修
理職乃大工小
仰せて巧匠と
召一下之被鉦
立礎居柱立精
鉦棟上之吉日
者陰陽の頭小
課せて定り下
こ被可一

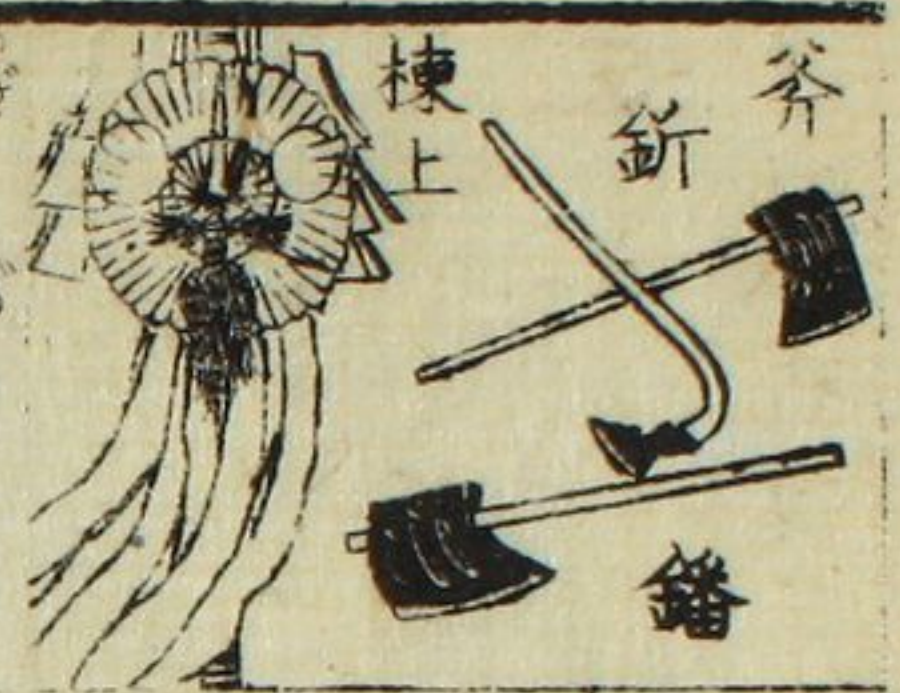
庭訓詩言

たう○藪ハ玉燭云霞暖障光明之物也○決入古抄云藪とて時ある
の合目と云とより未詳○宇直正字梳うう紅梁のうふうう本柱と
尔雅云梁上柱檜之梳と○扱首うううのうにわつふ本○
ハ板敷の下小わつたの柱うう○扱植ハ板の上小送小極とわつた云○
押竹藪本と古来うう来れも漢うう一押竹藪本とてむべ一扱扱ハ
う小極とてれとよむべき本扱いづれの書うもを順和名ハ構とてれ
よませりそのう押ハをゆる秘書ハをそくおさるかそふん別し押ハの
とをうわううハハ風かえのうわ小屋よふ本うう一今も社ハ小
柄ハ藪本と用うとて合ハ一上代ハ氏家も社ハのうう柄ハ藪本
わじう一神書ハをううう柄ハのうわりハ風押ハの本ハ風本とハの
やう風とちとハハ柄ハの古抄とて本風器風と今もうう之柄ハ押
柄ハ柄ハの類藪本ハ藪本の類ハううハ日本紀ハ武紀ハ柄ハとハ
てらぎと例ナレハ柄ハおさくの本とハハ柄ハハハ○柄ハハ
下学集云日本俗呼細木曰檜楚楚作曾非也云順和名も俗用檜ハ
二字今扱楚
山造斧鑄新所造他釘金物

老用之炭鉄石居被治と造也作本
寮修理職人被召下所造之礎
石柱立精棟上之吉日
者陰陽の頭小課せて定り下
こ被可一

庭訓詩言

三十一



次小樹木之事
 梅桃李枇杷杏
 楊梅柿栗梨子
 推榛拓榴束樹
 淡柚柑柑子橘
 温州橘金柑柚
 以下心之及
 所尋れ殖え令
 以候は畢ぬ尚

御日記と以仰
 せ下之被可
 申入る可き
 子細候ふと雖
 御領田堵の土
 民名主莊官等
 野心と存する
 之間條條未落
 居せ未候ふ責
 伏せ之後恭上
 と遂け申入
 る可き之旨披
 露し給ふ可き
 者也恐恐謹言

庭訓語言

さらし野の人の可小福者事り又事久し友小和親あうり候へり云
 らしりんら小分らうらうらうら〇本二葉唐名將他監本他り
 と同し今も内裏以下の内侍に遣他者氏察の御はるう文工小工横上
 控小工り〇侍に御に唐名西他内裏の侍に遣他者氏察の御はるう文工小工横上
 陽の唐名司天監お高深六位下天文曆教と司る此内小曆は天文
 法と云わり若くは後氏天文も曆乃ち並行れりも後氏の保憲り時
 曆乃ち天文光業小侍天文といふ子の安倍晴明小
 侍りり曆乃ち安業氏天文の安倍氏といふれり

次樹木之
 事梅桃李枇杷杏楊梅柿栗梨子
 推榛拓榴束樹淡柚柑柑子橘
 温州橘金柑柚
 以下心之及
 所尋れ殖え令
 以候は畢ぬ尚

領田堵七氏名之在左方号存野心之
 間條未落居責伏し後遂業上云
 申入る可き
 子細候ふと雖
 御領田堵の土
 民名主莊官等
 野心と存する
 之間條條未落
 居せ未候ふ責
 伏せ之後恭上
 と遂け申入
 る可き之旨披
 露し給ふ可き
 者也恐恐謹言

二月十一日

左邊の村橋

庭川登注

三十三

三月十三日
左衛門の尉橘
進上
玄蕃の允殿

久く案内と啓
せざるの間不
審千萬何條の
御事候小哉抑
御領興行之段
黎民之竈小朝
夕の煙厚く百
姓之門小東西
の業繁り仁

政之其致
予所也賞罰嚴
重小して人之
堪否と知り理
非分明小して
物之奸直と糾
す者萬民の婦
子所也心小
寛有之扶と存
強て其化際
と好ま不る者
所領静謐之基
也毛と吹て過
怠之疵と刺む

進上 玄蕃允殿

○左衛門大尉八右衛門六右衛門七右衛門上康定令右衛門尉○橘進上
ハ重武天皇天平八年十二月甲午嘗て之始櫻橘姓とて昔城とてり不
升子左大臣法兄とてり故達の
五世ハ万葉集の撰者とてり

久不啓案内の事不審次第何條の
事小哉抑領興の御事黎民之竈の
夕の煙厚く百姓の門小東西の業繁り
不致也貴府嚴重知人の堪否と知分
明礼物奸直と糾す者萬民の婦子所也心
寛有之扶と存強て其化際と好ま不る者
所領静謐之基也毛と吹て過怠之疵と刺む

宥む技法不好と化際と所領静謐之

基也吹毛不盡求と怠之疵

應助注云喻人皆安然如墻堵之不遷動也云云
○不審ハ
いふことなり○黎民ハ百姓の事なり○煙厚ハ煙の厚き事なり○百姓の門ハ百姓の家の門なり○西の業繁りハ西の業が盛んな事なり○東の業ハ東の業の事なり○吹毛不盡求ハ毛を吹いて毛が尽きずる事なり○怠之疵ハ怠りたる疵の事なり○刺むハ刺す事なり○橘進上ハ橘の進上なる事なり

長川登生

三二日

者辻子小路と
通見世棚と
構へ令り絹布
之類贅の菓子
賣買之便有る
の様相計ら
被可き也

招き居名可き
輩者鍛冶鑄物
師巧匠番匠木
の道并小銀
銅の細工紺掻
漆殿綾織蠶養
伯樂牧士炭焼

樵夫檜物師轉
轡師塗師蒔繪
師唐紙師紙漉
傘張養賣廻船
人水主楫取漁
客海人未砂白
粉燒櫛引烏帽
子折商人沽酒
酢造弓矢の細
工淡草の土器
作葺師壁塗欄
師狩人猿樂田
樂獅子舞傀儡
師琵琶法師懸

菓子有賣買之便被可き也

極多の菓子世の時大和國之攝津の市とて市とてをいふなり
收いふはの味もよくもやうもよくもあり字彙云牧音木守養六
畜古者州長謂之牧亦取守養之義云○贅ハ左傳男贄大者玉帛
小者禽鳥女贄不過榛栗束脩云○贅ハ貴人小見の時よくよくをいふ物
のりも贅ハ金とていふとてよくよくなり

可指居名之飛治
漆物師巧匠番匠木
の道并小銀
銅の細工紺掻
漆殿綾織蠶養
伯樂牧士炭焼

樵夫漁客海人未砂白粉燒櫛引烏帽
子折商人沽酒酢造弓矢の細工淡草の土器
作葺師壁塗欄師狩人猿樂田樂獅子舞傀儡
師琵琶法師懸

并小醫師陰陽師繪師佛師智

縫物師武藝相撲之族或禪律

陰陽師繪師佛師智縫物師武藝相撲之族或禪律

密宗の學生修驗の行者効驗

の貴僧智者人紀典仙經の儒者明法明經

道の學士詩歌の宗匠管絃の

多念の名僧檢斷所務の沙汰

の聲明師一多念の聲明師一多念の聲明師



白拍子法師琵琶遊女獅子舞縣御子
ハ日中ノミテ金團圓畫の妙多し一糸院の時の人姓ハ巨勢氏實ハ大納言
小室○併ハ天竺ノ昆首羯大日本ノハ後一糸院の時定丸法橋
と姑トテ其の後有明院流テ運慶その子運慶其子安河院流トシ
其妙多し○摺繪物師ハ衣裳の摺繪伎トシテ其の妙多し○其
又出雲國ハ所見宿禰トシテ勇士あり世中人と云カクテ其妙多し
又出雲國ハ所見宿禰トシテ勇士あり世中人と云カクテ其妙多し

仰下さ被る之
旨畏り拜見仕
り候ひ畢ぬ先
度の御事書小
就て藝才七座
之店諸國の商
人旅客の宿所
運送賣買の津
悉遵行せ令り
候ふ交易合期
公私の潤色
何事之小如
ん哉

定役の公事臨
時の課役月迫
の土分節季の
年預更小道避
す可く不
欽凡京の町人
濱の商人鎌倉
の誂物宰府の
交易室兵庫の
船頭淀河尻の
刃祢大津坂本
の馬借鳥羽白
河の車借泊泊

○素女正相通正六位下唐名素女令 ○中務正
大正六位上少正六位上唐名中書令

被作下之名畏持人任年先方注

事書藝才七座之店諸國商人旅客

宿所運送賣買津美令並以交易

合期公私潤色何事之小如ん哉

類之才紀曲仙純のたう ○七座店田物云
運送の事いひかゝる市町無形の筋云 ○交易
の事いひかゝる市町の物に事よして事に
合期の事いひかゝる市町の物に事よして事に
類之才紀曲仙純のたう ○七座店田物云
運送の事いひかゝる市町無形の筋云 ○交易
の事いひかゝる市町の物に事よして事に
合期の事いひかゝる市町の物に事よして事に

定役の公事臨時保役月迫上分節季
年預更小道避凡京の町人濱の商人鎌倉
の誂物宰府の交易室兵庫の船頭淀河尻
の刃祢大津坂本馬借鳥羽白河の車借泊泊

追之上任保載運送

時保役の定役の公事臨時保役月迫上分節季
年預更小道避凡京の町人濱の商人鎌倉
の誂物宰府の交易室兵庫の船頭淀河尻
の刃祢大津坂本馬借鳥羽白河の車借泊泊

の借上湊湊乃
替錢浦浦の間
丸同く割符と
以之と進上
倣載に任せて
之と運送に



次小大舎人乃
綾大津の練貫
六條の漆物猪
熊の紺宇治の
布大宮の絹烏

丸の烏帽子室
町の伯樂手島
遙嶺岷土器奈
良刀高野判刀
大原の新小野
の炭



小柴の黛城殿
の扇仁和寺の
眉作姉小路の
針鞍馬の木芽
漬醍醐の烏頭

庭訓語註

内裏へ進貢する物事は、中々の金と一奉の中代の利借を、
一その内裏へ、長季に、金貢する、と云々、又、借上、
るに、放て、納する、の、と、云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、
○借上、金銀の利借と云々、

布東山の蕪西
山の心太此外
加賀絹丹後精
好美濃の上品
尾張八丈信濃
布常陸細上野
綿上總鞆武蔵
鏡佐渡沓伊勢
切付伊豫簾讚
岐圓座同く檀
紙播磨杉原

備前刀出雲銀
甲斐の駒長門

牛奥州の金備
中の鐵越後の
鹽引隱岐鮫周
防鯖近江鮒淀
鯉土佐材木安
藝の樽能登釜
河内鍋
奥州金備
備後酒和泉酢
若狭の椎宰府
の栗宇賀の昆
布松浦の鯛夷
の鮭奥の漆筑



精好美濃上品尾張八丈信濃布常

陸細上野綿上總鞆武蔵佐渡沓

伊勢切付伊豫簾讚岐圓座同く檀

紙播磨杉原

備前刀出雲銀

甲斐の駒長門

牛奥州の金備

中の鐵越後の

鹽引隱岐鮫周

防鯖近江鮒淀

鯉土佐材木安

藝の樽能登釜

河内鍋

奥州金備

備後酒和泉酢

若狭の椎宰府

の栗宇賀の昆

布松浦の鯛夷

の鮭奥の漆筑

紫蓋或異國唐
物高麗の珍物
雲の如く霞小
似

交易賣買之利
潤者四條五條
之辻小超過せ
り往來出入之
貴賤者京都鎌
倉小異ら不凡
御領豐饒小而
甲乙の人富有
せ令り屋作家
風尋常小而上

下已神妙也急
ぎ御下向有て
高覽有る可き
欲須て御迎ひ
の夫力者と催
し進せん也恐
恐謹言

四月十一日
中務の丞清原
進上
采女の正殿
良久く面謁と
隔て積鬱山乃
如し何の由ら

之兼物物如雲似霧

○宰府の采女
藤原も云一年に二回

の○字の帳夫が高うり○松浦の北の光○奥深の采女今
津より出る○筑紫の西國九州の惣名うり○言兼の采女今

交易賣買之利潤者四條五條
之辻小超過せり往來出入之
貴賤者京都鎌倉小異ら不凡
御領豐饒小而甲乙の人富有
せ令り屋作家風尋常小而上

四月十一日

中務丞清原

進上 采女正殿

○清原の采女親王の孫小倉主の子
夏所小ありてはふとさうの姓なり

良久隔て積鬱山乃如し何の由ら
我非面謁と文不承候併仍奉令

○面謁の字彙小清原の人小ありてはふとさうの姓なり
○積鬱の字彙小清原の人小ありてはふとさうの姓なり
○采女の字彙小清原の人小ありてはふとさうの姓なり

延川

朦霧と披らん
 哉面談お非ぞ
 ん者更お之
 謝す可く不
 併参会と期に
 柳瀬東下向の
 大名高家之人
 人路次之便と
 以打寄す可き
 之由内内其間
 候ふ折節草亭
 見苦敷く資具
 又散散之式小
 候ふ也御扶持

小預ら不人者
 今度の恥辱と
 隠し難し助成
 せし被者主前
 之大幸也
 臨時之客人纏
 頭之外他無一
 卒爾の経営周
 章之至忙然也
 無心之所望に
 候ふと雖慢幕
 同く幕串高麗
 端の畳深縁の
 差違屏風几帳

庭訓証言

柳瀬東下向の
 大名高家之人
 人路次之便と
 以打寄す可き
 之由内内其間
 候ふ折節草亭
 見苦敷く資具
 又散散之式小
 候ふ也御扶持

〇園東に相撲を落安房上総下総上野中津河
 實八物とも振東八物ともいふことありては〇茶

資具の資いたすこと
 〇資具の資いたすこと
 〇資具の資いたすこと

臨時之客人纏
 頭之外他無一

小預ら不人者
 今度の恥辱と
 隠し難し助成
 せし被者主前
 之大幸也
 臨時之客人纏
 頭之外他無一
 卒爾の経営周
 章之至忙然也
 無心之所望に
 候ふと雖慢幕
 同く幕串高麗
 端の畳深縁の
 差違屏風几帳

〇園東に相撲を落安房上総下総上野中津河
 實八物とも振東八物ともいふことありては〇茶

資具の資いたすこと
 〇資具の資いたすこと
 〇資具の資いたすこと

臨時之客人纏
 頭之外他無一

庭訓証言

翠簾恩借せし
被者人夫と以
之と送り賜ふ
可

此外打鉞子金
色提青漆の鉢
茶碗の具高杯
懸盤引入合子
皿蓋油蠟燭鐵
輪以下注文と
進以悉以借預
ら者使者と進
す可く候ふ也
家人若黨并小

家來之仁等皆
以無骨の田舎
人也配膳勸盃
料理庖丁或盛
物已下故実の
識者一兩輩雇
ハ令め給ふ可
き也萬事父母
之思と成し奉
了畢ぬ敢以弄
指せし被可り
ら不併參拜之
時と期し候ふ
不具恐惶謹言

の儀とて贈りしは二枚なり○漆俵送る白
方俵の付る送る○几帳の衣掛のしして箱の帯打ちけし女侍の
居るふりふさぎりのり百人一首の持鏡天竺の儀は
うけりの○扇の儀は送る風とありてその儀なり
此外打

鉞子金と提青漆茶碗具高杯

懸盤引入合子皿蓋油蠟燭鐵

輪以下注文と進以悉以借預ら者使者と進す可く候ふ也

家人若黨并小

家來之仁等皆以無骨の田舎人也配膳勸盃料理庖丁或盛物已下故実の識者一兩輩雇ハ令め給ふ可き也萬事父母之思と成し奉了畢ぬ敢以弄指せし被可りら不併參拜之時と期し候ふ不具恐惶謹言

家人若黨并小

勸盃料理庖丁或盛物已下故実識者一兩輩雇ハ令め給ふ可

者一兩輩雇ハ令め給ふ可

識者一兩輩雇ハ令め給ふ可

ハ令め給ふ可

可

可

可

可

可

可

可



五月九日

左京の進平

進上

藏人將監殿

不審千萬之虞

玉章忽到来更

小餘齎と貽す

こと無一便且

と以徘徊せら

被者尤木望也

抑客人光臨の
結構奔走察し

奉り候ふ借用

せし被る所之

具足所持之分

小於者之と進

す可き也燈臺

火鉢蠟燭臺ハ

注文ハ載せら

被不と雖進ハ

所也

能米馬の大豆

秣糠菜味噌醬

酢酒鹽梅并小

度訓詁言

度々見えてはるるありしものどね実の藏者と云ふ人の家来の老
ももるを骨の田舎人多れはの法式もあつたはる程不死法鏡玉押
地虎下置物以下の板実で、柱のゆるりある一人宛
さきとさう○身振をせりおすつとさう

六月九日

左京を平

進上 藏人將監殿

○左京を平進ハ後六位下少進ハ
正七位下唐名ハ系北司録

不審千萬之虞 玉章忽到来更

小餘齎と貽す こと無一便且

と以徘徊せら 被者尤木望也

抑客人光臨の 結構奔走察し

奉り候ふ借用 せし被る所之

具足所持之分 小於者之と進

す可き也燈臺 火鉢蠟燭臺ハ

注文ハ載せら 被不と雖進ハ

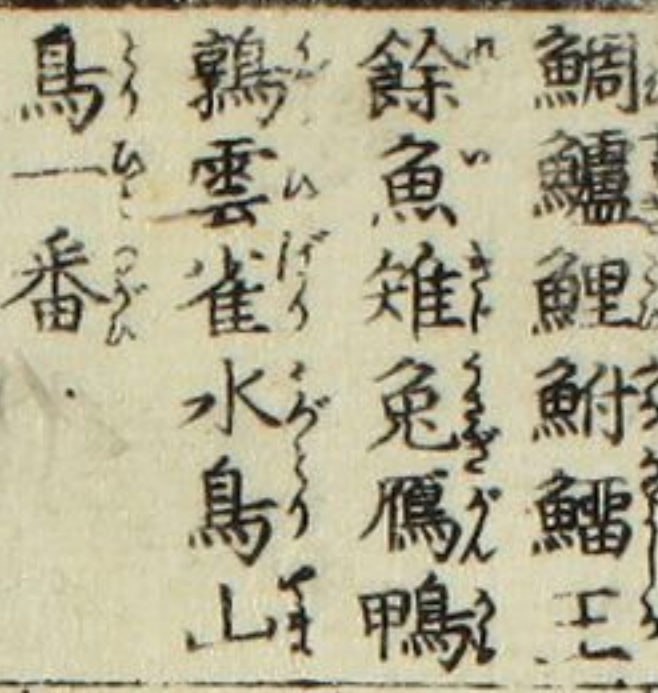
所也 能米馬の大豆

秣糠菜味噌醬 酢酒鹽梅并小

梅并初秋料海川厨事年乾梅干刺物

庭訓詁言

初獻の料小海
月野斗飽梅干
削物者干鯉圓
鮑干蛸魚の躬
煎海鼠生物者
鮑鱸鯉鮓鯔王
餘魚雉兔鴈鴨
鷄雲雀水鳥山
鳥一番



雁 鴨
鷄 雉子
兔
引鱧の鮓鮓の
鹽漬干鳥干兔

鹽肴者鮓の白
干鮓の黒作鱧
の楚割鮓の鹽
引鱧の鮓鮓の
鹽漬干鳥干兔

干鯉圓乾干坊魚躬。善海氣生物類。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

雀水鳥。山鳥一番。味香。順和名。未詳。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

梅干。鮑鱸鯉鮓鯔王。餘魚雉兔鴈鴨。鷄雲雀水鳥山鳥一番。

干鹿干江豚豕
の焼皮熊の掌
狸の澤渡猿の
木取鳥督蟹味
噌海鼠の腸豚
鳥賊辛螺菜螺
蛤堵交の雜喉
氷魚等或買價
り或乞索め之
と進せ令り候
小猶以不足の
事候ハ者使者
と給ふ可き也
恐恐謹言

五月日
藏人將監大江
左京の進殿
此間者連連の
物惣小依て互
小密密の雜談
と忘る誠小不
慮之至也抑世
上既靜謐小屬
する之間竊鷹
逍遙の爲小參
入と企てんと
欲し候小之虞

木取鳥督蟹味噌海鼠腸豚鳥賊
辛螺菜螺蛤堵交雜喉氷魚等或
買價或乞索め之進せ令り候小猶
以不足の事候ハ者使者と給ふ可
き也恐恐謹言

六月日

左京進殿

藏人將監大江

○大江の鮒鮓八年三月河保親王の治子を蒙り
暫も人ふまじりて物まじりて姓なり

此間者連連の物惣小依て互小密密の雜談と忘る誠小不慮之至也抑世上既靜謐小屬する之間竊鷹逍遙の爲小參入と企てんと欲し候小之虞

○連ハ打つぎ
つらう者物
○逍遙ハ字彙
轉寫自適見といり
翔翔二字もにうらるる自適ハいふもの
翔りたりて我人のすく小わきふとらう則文選小逍遙とわきふとけり
羽道をはたし小羽と放る意とわきふとらう意道をはたし小羽とらう
ちて考へてそのあそびとらう羽道遙のひん人皇と十七代孝徳天皇の時
まると同抄みえりとも正史の本拠とわきふとらう羽道遙のひん人皇
十七代仁徳天皇の時百海國より海君と云人皇と考へて成すまで天を乃
はたし候小之虞とらうとらう日本書紀みえりとも是日日本と考へたの

謀叛反逆之凶

徒籌策と廻ら

盗賊狼藉之

惡黨と引卒

國國于蜂起せ

令め山海の西

賊強竊二盗の

徒黨所所于横

行せ令め人之

財産と奪ひ取

と土民之住宅

と追捕し旅人

之衣裳と剥取

る之間

誅伐追討の爲

小大將軍方方

小發行せし被

る小依て當家

の一族同く彼

戰場小馳向い

城郭と破却し

楯籠る所之賊

徒と追伐し要

害と警固す可

しと云云

之小因て近日

進發せ令めん

謀叛反逆之凶

徒籌策と廻ら

盗賊狼藉之

惡黨と引卒

國國于蜂起せ

令め山海の西

賊強竊二盗の

徒黨所所于横

行せ令め人之

財産と奪ひ取

と土民之住宅

と追捕し旅人

之衣裳と剥取

る之間

誅伐追討の爲

小大將軍方方

小發行せし被

る小依て當家

の一族同く彼

謀叛反逆之凶

徒籌策と廻ら

盗賊狼藉之

惡黨と引卒

國國于蜂起せ

令め山海の西

賊強竊二盗の

徒黨所所于横

行せ令め人之

財産と奪ひ取

と土民之住宅

と追捕し旅人

之衣裳と剥取

る之間

誅伐追討の爲

小大將軍方方

小發行せし被

る小依て當家

の一族同く彼

庭訓語言

三十一

戰場を具象馬以下を貞丈の年云

因之近日欲令進發す

○城郭ハ吳越春秋云蘇築城以肅君造城以守民記以為城郭之

始云又内曰城外曰郭云城ハちり郭ハくろく

○要害ハ此の第云々

師古云在吾為要於敵為害云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々

○要害ハ此の第云々



且、戦功之志
 否、依り且、
 軍忠之淺深、
 随ひ朝恩、
 せんと欲ひ、
 代相傳之分領
 一所懸命之地
 小於者相違有
 る可ら不
 者哉、餘命を顧
 不るに依て心
 底と殘と不候



大荒目筒
 六月七日
 勘解由の次官
 小町
 謹上
 後藤兵部の丞
 殿
 祇今使者と進
 せんと欲候
 不慶遮而音信
 小預り候ふ條
 本懐不相叶ひ

庭言書言

小徳ひその時、
 又小蓋系流の
 ひ、
 且依

戦功之志否、
 且隨軍忠之
 淺深、
 於代相傳之
 分領、
 一所懸命之
 地、
 小於者相違
 有る可ら不
 者哉、餘命を
 顧不るに依
 て心底と殘と
 不候

六月七日

勘解由次官

謹上 後藤兵部丞殿

○勘解由次官、延喜式云、勘解由使者、諸國諸司、諸寺等、之未進、不解由、勘
 解之職也、假令從諸國有所奉貢物、書帳送勘解由、使判官主典、勘定、作目
 録、白長官次官、直令奏聞也、云、次官、云、長官、の、下、の、長官、に、
 由、奉、名、の、勘、○、云、奉、名、の、勘、○、云、奉、名、の、勘、○、云、奉、名、の、勘、○、

祇今使者と進
 せんと欲候
 不慶遮而音信
 小預り候ふ條
 本懐不相叶ひ

庭言書言

四十二

大底之規式。今官符宣者。非今指

有。○倫多天子の物と有りて文と流傳とを傳名と云。○院室ハ院乃

と云。○今名ハ春宮親王と云。○官符宣ハ宣符

指及の指何と文に流傳と云。○指符ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

り。○指符ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

つくり手と奉と有と指符ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

車官方ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

紀の位も指符ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

指符ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

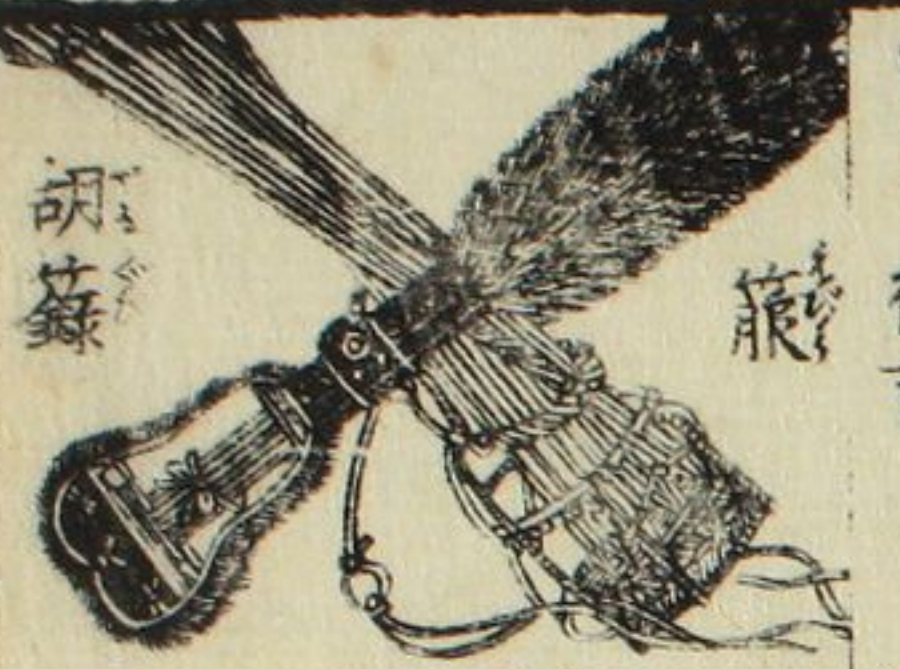
ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏

ハ書言友事云文趾のみに紙雲氏



候不殊不以喜
悦喜悅抑戰場
御進發之昨夜
前始也奉所
也綸旨院宣者
大底之規式今
旨官符宣者今
の指南ハ非ハ

大將軍副將軍
の御教書傍輩



の軍勢催促又
信用之限ハ非
さる也將軍家
之御教書執事
之施行侍所之
奉書者規模也
且ハ嘉例且ハ
先規也沙汰ハ
申可

大將軍副將軍

軍教書傍輩

之限也將軍家

之御教書執事

之施行侍所之

奉書者規模也

且ハ嘉例且ハ

先規也沙汰ハ

申可

胡蘇

大將軍副將軍

軍教書傍輩

之限也將軍家

之御教書執事

次ハ武具の事
見苦敷ク候フ
と雖紫系前黄
糸綴卯の花緞
黒糸の鑑赤革
黄糸の腹巻唐
綾小櫻黒革緞
大荒目の筒丸
紺繩目紺糸綴
腹當星白龍頭
四方白の甲各一
同色の袖并ニ
手蓋膳當半首
延懸鍔袴逆頬



簾胡録石打乃
征矢筋切符妻
黒の篭矢鴉鵲
の羽鶴の本白
等尻籠鷹の羽
の雁股鷹の羽
の鋒矢各腰當
と相具ハ弓若
本重藤漆籠糸
裏等也弦巻と
加へ候ハ畢ル

度司書

糸綴卯の花緞。黒糸の鑑赤革。黄糸の腹巻唐。綾小櫻黒革緞。大荒目の筒丸。紺繩目紺糸綴。腹當星白龍頭。四方白の甲各一。同色の袖并ニ。手蓋膳當半首。延懸鍔袴逆頬。

送頬。○卯系緞ハ金糸作白ハ赤革ハ漆革ウリ唐綾ハハ物ハ小桜ハ
交して緞サといハ又荒目筒丸ハ竹丸ハ緞ハ各その形給のハ何れハ前
一ニ在りて袴内の方縫着ウリハその方ハ合チ縫して去ハハこれ緞
延ウリハハ大荒目の筒丸ハハ竹丸ハハ緞ハハ何れハ前
ウリハハ赤革ハハ緞ハハ何れハ前
星白の綴の豐形ウリハハ竹丸ハハ緞ハハ何れハ前
の條給ウリハハ竹丸ハハ緞ハハ何れハ前

筋胡録石打征矢筋切符妻。黒の篭矢鴉鵲の羽鶴の本白。等尻籠鷹の羽の雁股鷹の羽の鋒矢各腰當と相具ハ弓若本重藤漆籠糸裏等也弦巻と加へ候ハ畢ル。

筋胡録石打征矢筋切符妻。黒の篭矢鴉鵲の羽鶴の本白。等尻籠鷹の羽の雁股鷹の羽の鋒矢各腰當と相具ハ弓若本重藤漆籠糸裏等也弦巻と加へ候ハ畢ル。

筋胡録石打征矢筋切符妻。黒の篭矢鴉鵲の羽鶴の本白。等尻籠鷹の羽の雁股鷹の羽の鋒矢各腰當と相具ハ弓若本重藤漆籠糸裏等也弦巻と加へ候ハ畢ル。

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆の張
鞍料の鞍橋金
地の鏡白磨の
轡大形の鞞細
筋の手細腹帶
豹の皮疊の鞍
覆虎の皮鹿の
子れ切付水豹
熊の皮の泥障
鞭差繩等御餼
の爲之と送り
奉

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆の張
鞍料の鞍橋金
地の鏡白磨の
轡大形の鞞細
筋の手細腹帶
豹の皮疊の鞍
覆虎の皮鹿の
子れ切付水豹
熊の皮の泥障
鞭差繩等御餼
の爲之と送り
奉
令輻輪螺鞍白橋黒漆張
鞍料鞍橋金地鏡白磨
筋の手細腹帶豹の皮疊
子れ切付水豹熊の皮の泥障
鞭差繩等御餼の爲之と送り
奉

兵糧八木鞍替
の備袋行器野
宿の料雨皮敷
皮油軍等の雜
具心の及ふ所
之と奔走に
兼てハ又定て
存知ら被る飲
然而先懸分捕
者武士の名譽
夜詰後詰者陣
旅之軍致也一



兵糧八木鞍替
の備袋行器野
宿の料雨皮敷
皮油軍等の雜
具心の及ふ所
之と奔走に
兼てハ又定て
存知ら被る飲
然而先懸分捕
者武士の名譽
夜詰後詰者陣
旅之軍致也一
令輻輪螺鞍白橋黒漆張
鞍料鞍橋金地鏡白磨
筋の手細腹帶豹の皮疊
子れ切付水豹熊の皮の泥障
鞭差繩等御餼の爲之と送り
奉

唐詩話

るに依て寸暖と得
不直小愚状と捧
候自由之至小候却
意と得て内内洩
申さ被可也
抑來廿日頃勝
負經營小候風
流の爲入可之
物一非
紅乘重杯楊裏
薄紅梅色色の
筋小袖隔子織
物單物濃紅の
袴美精好の裳

唐綾狂文乃唐
衣朽葉地紫の
羅練貫浮文
の綾摺繪書れ
目結卷深村紺
搔淺黃小袖同
く懸帯
詩繪の手箱硯
篋冠表の衣水
干直衣狩衣烏
帽子直垂大口
大帷子太刀長
刀腰刀箆胡籛
大星の行騰房

○風流下字集云風情之美也日本俗
呼拍子物曰風流可系に風流と書きたるは通じやうといふ
紅糸
手揚裏汚紅梅色小袖隔子織物
單衣濃紅袴美精好裳唐綾狂文唐
衣朽葉地紫羅練貫浮文綾摺繪
書目結卷深村紺搔淺黃小袖同懸帯

又一洗去袖の白糸と書くる字ありけり白糸と用ふ後おろけに後用と用は来
ると云へり按ずるにこの洗も使はれに順和名ありけり小袖と云字を
細と云へり唐句云相女人近身衣也云々○摺絵と書はる摺はる摺の類
と摺付るるりの中は書はる外と云ふあり○目結卷深はるり
深きう○村紺摺はる裏の深はるり○浅黄小袖はるりありけり
白糸ありけり浅黄と云ふは浅黄と云ふは浅黄と云ふは浅黄と云ふ
青摺はるりありけり深黄と云ふは深黄と云ふは深黄と云ふは深黄と云ふ
と云ふは深黄と云ふは深黄と云ふは深黄と云ふは深黄と云ふは深黄と云ふ
の大織につけて着るるるる物
○手巾半中をとりて
前縁子粉得送詩表
半直衣狩衣烏帽子直垂大口大帷子
太刀長刀腰刀箆胡籛大星行騰房
手揚裏汚紅梅色小袖隔子織物

尾川登主 白十七

下等下也心僅云

○病今の制ハ文武天皇の少時ハ改メテ之ニ厚額造叙の二名アリ

○表衣ハ袍ウリコレ神代ノ始ル神後ウリ神代ハちまやと号セリ九袍ハ天子親王臣下等ノ衣ヲ申ウレモ云々色と紋との名々々々

○鳥帽子ハ烏帽子ヲ烏帽子左折右折風打ノ布也

○大帷子ハ布ト申ウレモ長二尺余汗衣ト号ル

○大星ハ麻ノ子目有ル由表ノ裏ト

○大星行袴ハ麻也

七月五日

左衛門尉大

宮内少輔殿



折鳥帽

白紙拂底之間

反故と用ふる

所也更に輕賤

之儀小非抑

申入る被

用物ノ事目

録小任せ之

下被る所也

用竭て後者急

夜交要利を云々

白紙拂底を云々

之儀小非抑を云々

申入る被を云々

用物ノ事目を云々

録小任せ之を云々

下被る所也を云々

用竭て後者急を云々

白紙拂底之間を云々

反故と用ふるを云々

所也更に輕賤を云々

之儀小非抑を云々

申入る被を云々

用物ノ事目を云々

録小任せ之を云々

下被る所也を云々

用竭て後者急を云々

白紙拂底之間を云々

可也

但一單衣の文

要用の分者差

合い候ふ之間

練色の魚龍白

張裏衣二重候

ふ注文之外使

者不屬して之

と申入らる

被長絹素絹袈

袋精好薄墨の

衣法服錦の七

條裳横尾鉞色

下の袴

張裏衣二重作注文外属便者等入

長絹素消袈袋精好薄墨衣法服

袴七條裳横尾鉞色下袴

ハ衣ノ裏袖括アリ素絹ハ白ナリ○袈袋ハ順カク云袈袋ハ天竺僧ノ

此云袈袋○精好薄墨衣ハ精好ノ袴ト云クハ薄墨衣ハ一法後ハ僧衣

ナリ○袴七條ハ袴ト云クハ袈袋ナリハ大袈七条ノ素ナリト云クハ大袈

ト云クハ九条ナリト云クハ素ナリト云クハ○薄ハ襦子ト云クハ佛前ト云クハ

ハ袈袋ノ下ナリト云クハ法後ノ下ナリト云クハ○此色ハ

珍佛具如意香炉高草鞋

鏡鉢錫杖鈴佛

具如意香爐水

精半装束の念

珠帽子直綴鼻

高草鞋

香炉

念珠

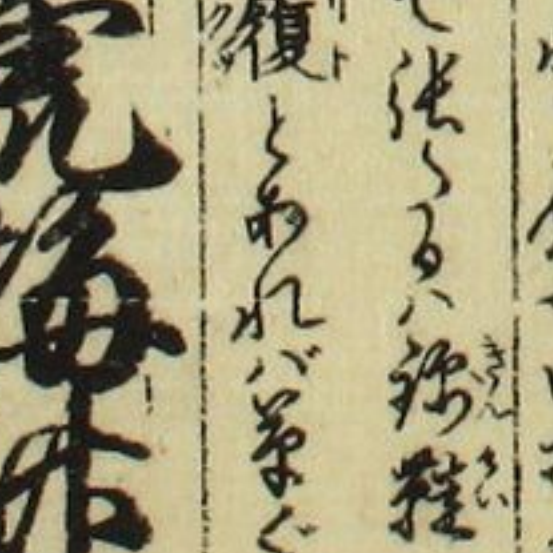
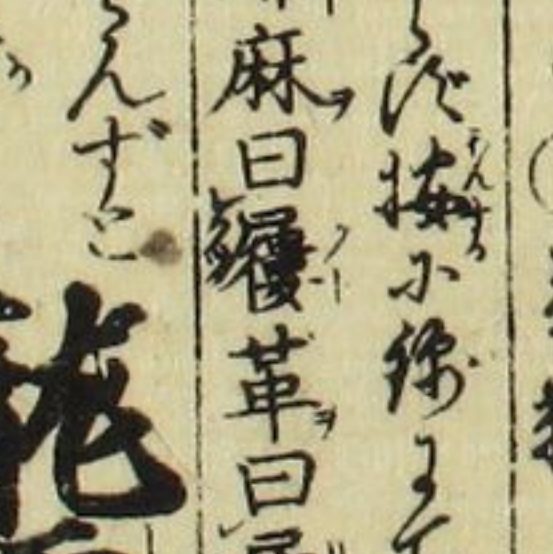
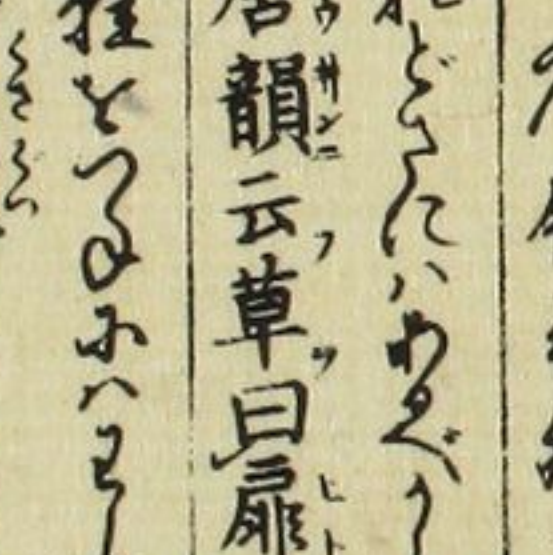
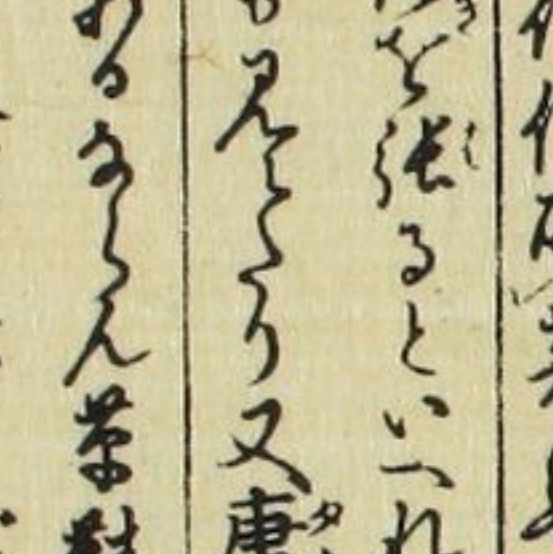
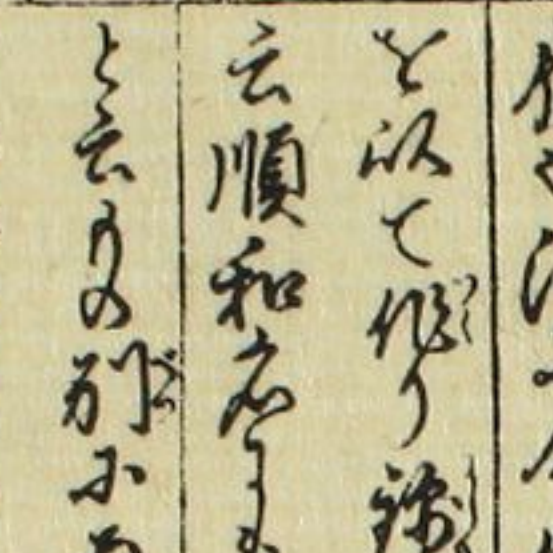
龍虎梅竹の唐

繪一對并小横

笛笙箏策和琴

箏琵琶方磬尺

八太鼓羯鼓鉦



龍虎梅竹の唐
繪一對并小横
笛笙箏策和琴
箏琵琶方磬尺
八太鼓羯鼓鉦
鼓二の鼓銅鉦

子指紋等ハ被乃下之利錫奉終之不

龍虎梅竹

唐繪一對并小横

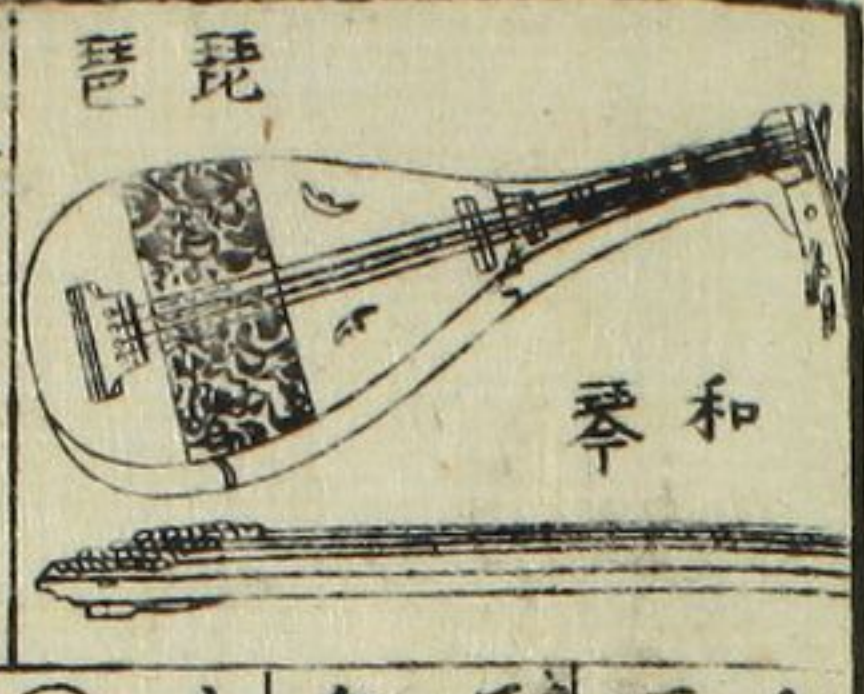
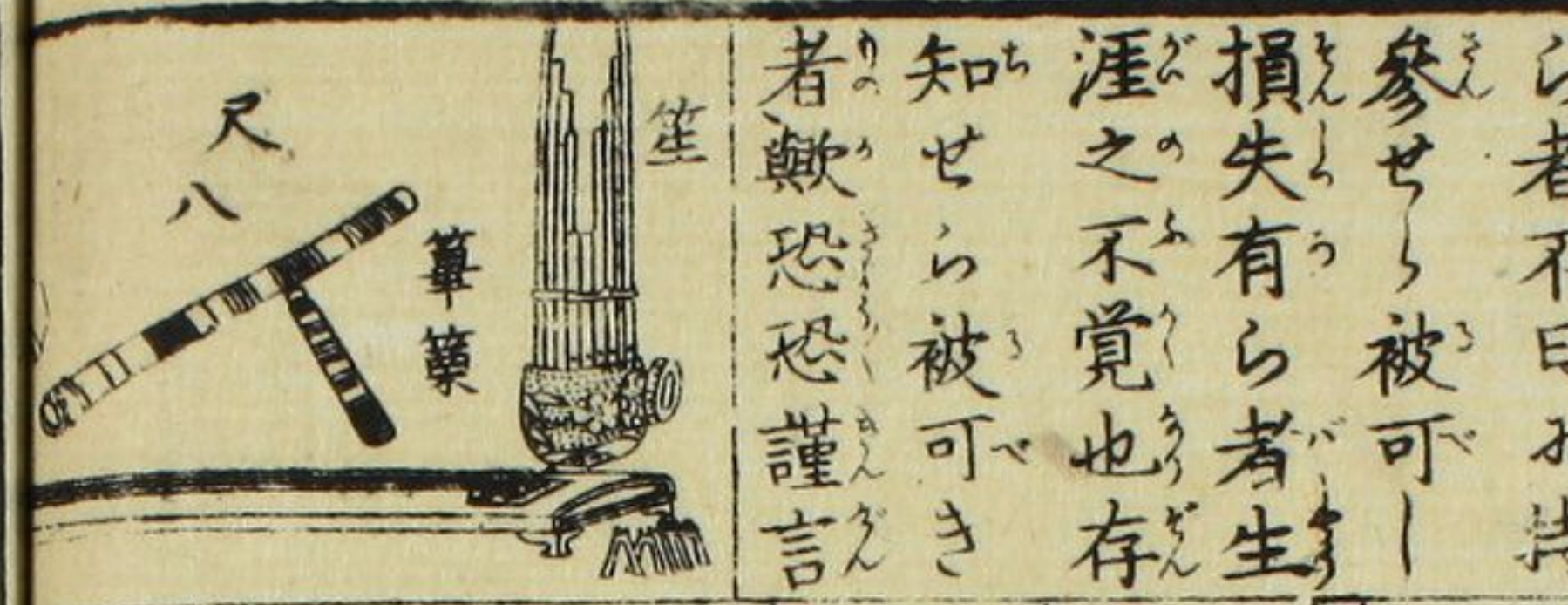
箏琵琶方磬尺

八太鼓羯鼓鉦

鼓二の鼓銅鉦

子指紋等ハ被乃下之利錫奉終之不

子摺鼓等同じ
之と尋ね下さ
被用場事終
ら者不日小詩
参せり被可し
損失有ら者生
涯之不覺也存
知せら被可き
者歎恐恐謹言



七月の日

謹上
大蔵の丞殿

下着以後久く
案内と啓せ不
了之條殆往日

日と持来有様美と生渡と交也
本出於羌也漢張騫使西

域首傳一曲李延年造新声二十八曲
○笙ハ古今原始云女媧氏下云命
随作笙簧娥陵作笙簫
○篳篥ハ旧阮云於玉の人の腹と管に吹
し
○和琴ハ今言ハ今日本小て樂小の之用
順和名云方響集云於相日本琴一面云
天平元年十月七日大伴使
寫附使監贈中納言督房兼
書記多々體似筆而短小有二種俗
用和琴二字夜方止古止云
○篳篥ハ今言ハ今日本小て樂小の之用
○風俗通云汴農造篳篥曰
秦声云
○琵琶ハ順和名云
龜名苑云琵琶本出於胡也上
篳篥云魏武造之今之所用これ
うり云
○方響ハ旧抄云樂器之細演の石を以て
作之順和名云律
昏樂圖云磬懸二十四唐令云玉磬方響各一架注云今案磬与方響似
而非也云
○尺八ハ順和名云律昏樂圖云尺八為短笛縱向吹者也云
唐書云尺八ハ胡人吹之也云
○篳篥ハ今言ハ今日本小て樂小の之用

下等集云玄宗善擊之有時春寒華遲玄宗登樓擊羯鼓而催花百花
一時盛開故謂之羯鼓樓云
○和琴ハ今言ハ今日本小て樂小の之用
二枚ハ大枚小枚云
○和琴ハ今言ハ今日本小て樂小の之用
無柄以皮為紐相擊以應節今夷樂多用之云
俗云ヒヤクヤク云
○不日ハ今言ハ今日本小て樂小の之用

謹上 大蔵の丞殿

紀

下着以後久く案内と啓せ不了之條殆往日
日芳甚頗北約中皆困只自危と悔更

の芳恩と忘るるが如く頗胸中の等閑小非に只自然之懈怠也恐れ入つ候ふ抑洛陽靜謐田舎無異貴邊の本望也愚身の快樂察せら被可き也之小就て御引付の沙汰定て行ハ被候ふ歟所領安堵遺跡

争論越境違乱之際參訴と致さんと欲する之敷此間の疲勞所領の佗僚合期一難く候ふ貴方の御扶持と憑き代官と進ず可き也短慮未練之仁稽古せ令むる之程御詞と加へら被不き者越度出來らん

度言言言

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○
也。心入作洛陽靜謐田舎無異也。○

度言言言

五十一

敷草案の土代
と書れ與つ
被奉行所引
導せし被者恐
悦小候ふ

引付問注所上
裁勘判之体異
見議定之趣評
定衆以下之成
注給ふ可
御沙汰之法所
務之規式雜務
之流例下知成

敗傍例納法律
令武家の相違
存知仕度
候ふ



晩学に候ふと
雖雪鑽仰之
功捐つ可
不古き日記法
例引付と借
給ふ一見と

代友と掛つらへし其友の事門とて之を友とす此の程未練の
りなれは其の方務古せしむるの程其友の事何と知られず其友
出まへし程は其の事案の代とすや之を事案とすは其の事案
○程は其の事案の代とすや之を事案とすは其の事案
○程は其の事案の代とすや之を事案とすは其の事案
○程は其の事案の代とすや之を事案とすは其の事案
○程は其の事案の代とすや之を事案とすは其の事案

引付問注所上裁勘判符其分人議定
之規式雜務之流例下知成
御沙汰之法所務之規式雜務
之流例下知成
敗傍例納法律令武家の相違
存知仕度候ふ

○下知上より下へ若くは上より下へ
○下知上より下へ若くは上より下へ
○下知上より下へ若くは上より下へ
○下知上より下へ若くは上より下へ
○下知上より下へ若くは上より下へ

惟晩学の雪鑽仰之功亦指傳給
古日記法例引付加見控不審の事
乃明也右等事執難し雜務之儀

天静謐の事人
人の攘災所
の幸枯也御沙
汰の事嚴密小
執行せし被る
所也更小停滯
豫儀之政道小
非に詐訟若悠
悠緩怠之儀有
ら者御在洛之
費也
活持之計略と
用意せし被可
先舉状と代

官於進せし被
者公所の出仕
諸亭の經廻圖
師と申し可き
也奉行人の賄
賂衆中の属託
上衆の秘計口
入頭人内奏員
肩機嫌と窺ひ
之と申し可
議状の謀實越
境の相論未甲
乙の次第と分
と(未)譜代相傳

倭く御在洛し費也。
○新河書事小引
つゝバスクの事
りとも来れ
つや
とよむ
おろ
く

可被用云活持計略先云進奉状に
代官として御出仕諸亭に候也
也意以人指候流中奉花上流秘計
頭人内奏員肩機嫌と窺ひ

實賊境相論未甲申し活持計略に
奉事小者於御出仕

活持の御出仕
御出仕の御出仕
御出仕の御出仕
御出仕の御出仕
御出仕の御出仕

通判書事

三十一

之重書等者引
付方小於御沙
汰不逢を被可

頭人上衆箇
右筆奉行入等
終日御評定の

為窮屈有りこ
雖更に御休息
無く之と勘判

せり被問注所
の賦小就て箇
尙重ねて之と

の奉書と訴人
於書與ふ之
時兩度小及て

無音せバ使節
に仰せと召符
と下と被違背

散状小就て者
直小訴人于下
知せり被召進

者訴状と封ト
下と被三問三
答の訴陳と番

ひ御前小於對

○上流ハ沙汰不の上流也○総計ハひとふもろ○
人より今ハ物ハと云○内妻良直ハ内海と云てり
の二字文選の源ハ他カ魚と云らるる○
とよむハ不交の義あり実ハまじらる○
○未分甲乙次第ハ甲乙ハ二の義あり
○未分甲乙次第ハ甲乙ハ二の義あり

上元圖圖右等奉初人等乃終日評

定有務在交交所休息は勘判

問及取賦箇箇を執筆と與問状を

訴人時及交交奉初人等乃終日評

控遺有散状と云て下初初初人等

之時ハ被去下所状者之問之答所陳

於沙汰逆對及任唯初是犯有以人

令及接事書控付初初初初初初

取令成敗也

○圖圖ハ身ハ人の中被う科人を捕獲也

○問状ハ身ハ人の中被う科人を捕獲也

○問状ハ身ハ人の中被う科人を捕獲也

○問状ハ身ハ人の中被う科人を捕獲也

○問状ハ身ハ人の中被う科人を捕獲也

決て遂げ雌雄是非は任せ奉行人事書と取捨せ令め引付お於御評定乃異見と窺ひ成敗せ令むる所也

問注所者永代の沽券安堵年記の枚券奴婢雜人の券契和與狀負累の證丈等の謀實之

と糾明の管領の寄人右筆奉行人等の評判也奉行人差符方之與奪と得當參の仁者書下と成り下國之時者奉書と下り而るに無音之時ハ使節召文成下し訴陳の状と調當所の執事年年の管領奉

決て遂げ雌雄是非は任せ奉行人事書と取捨せ令め引付お於御評定乃異見と窺ひ成敗せ令むる所也
問注所者永代の沽券安堵年記の枚券奴婢雜人の券契和與狀負累の證丈等の謀實之

與狀負累の證丈等の謀實之
問注所者永代の沽券安堵年記の枚券奴婢雜人の券契和與狀負累の證丈等の謀實之

與狀負累の證丈等の謀實之
問注所者永代の沽券安堵年記の枚券奴婢雜人の券契和與狀負累の證丈等の謀實之

行人等に相對
同答と致し
沙汰と披露す
可一探題之異
見不就て下知
と加ふる所也



所者謀殺
書山海の兩賊
強竊の盜放

火刃傷打擲
雖勾引路次
狼藉鬪諍喧嘩
等也管領執事
奉行人之と檢
斷す所司代訴
状と右筆於賦
了之時小舎人
或下部等と以
犯人と侍所於
召出し申し詞
と記録一言色
軀の嫌疑小依
て犯否と糾明

若者方、旧抄云、方角の事、形は、流儀む、つう、つう、の、介、色、く、物、物、は、流、儀、
も、不、用、○、と、奪、儀、未、抄、左、大、臣、權、中、云、宮、中、の、中、一、向、左、大、臣、流、儀、
故、抄、上、圖、白、云、人、乃、左、大、臣、附、右、大、臣、行、上、事、是、依、圖、白、と、奪、也、
降、院、不、と、奪、儀、未、抄、代、の、事、う、つ、う、の、文、云、と、奪、儀、未、抄、
戸、の、事、乃、と、奪、儀、未、抄、代、の、事、う、つ、う、の、文、云、と、奪、儀、未、抄、
の、事、乃、と、奪、儀、未、抄、代、の、事、う、つ、う、の、文、云、と、奪、儀、未、抄、
孔子家語の流、小、以、賢、代、賢、謂、之、与、奪、と、是、也、○、
於、わ、り、と、云、書、介、と、人、の、田、金、を、あ、ま、よ、う、所、以、人、う、田、金、快、と、作、
て、備、大、と、ま、ず、り、の、事、○、
お、の、方、上、系、上、と、ま、ず、り、の、事、○、
一、年、と、ま、ず、り、の、事、○、
○、
か、條、の、以、六、は、流、儀、未、抄、代、の、事、
○、
海、東、械、法、秘、盜、放、火、刃、傷、打、擲、疎、洩、
侍、所、と、謀、殺、殺、害、山、

勾引路次狼藉
鬪諍喧嘩等也
管領執事奉行
人之と檢斷す
所司代訴状と
右筆於賦了之
時小舎人或下
部等と以犯人
と侍所於召出
し申し詞と記
録一言色軀の
嫌疑小依て犯
否と糾明

す之の時所犯
 己遁^{はなれ}所無^{ところ}
 くん者則之と
 召籠^{よこせ}或推問^{おしこ}
 拷問^{ごうもん}拷訊^{ごうしん}等^ら
 及^{およ}んで之と尋^{たず}
 搜^{たづ}り與同黨類^{どうだつるい}
 等^らと尋究^{たずか}り斷^き
 罪^{つと}す可^べき者^{もの}ハ
 之^のと誅^{つと}せし^め被^ら
 誠^{まこと}む可^べき者^{もの}ハ
 之^のと禁獄^{きんごく}一^{いつ}流^{りゅう}
 刑^{けい}す可^べき者^{もの}ハ
 流帳^{りゅうじょう}不^ふ記^き者^{もの}被^ら

此外^{このほか}火印^{かいん}追放^{ついほう}
 以下^{このより}事^{こと}の輕重^{けいじゆう}
 其人^{そのひと}の是非^{せいひ}ハ
 隨^{したが}て之^のと行^なハ
 被^ら可^べし
 次^{つぎ}ハ寺社^{てらじや}の訴^う
 訟^{そう}者^{もの}本所^{ほんじよ}の舉^あ
 達^{たつ}ハ就^つて之^のと
 是非^{せいひ}せし^め被^ら越^え
 訴^うの覆勘^{ふくかん}者^{もの}探^{たん}
 題^{だい}管領^{くわんりやう}の與奪^{いうたつ}
 に依^よて之^のと執^{しつ}
 行^なせし^め被^ら事^{こと}と
 庭中^{ていぢゆう}於^おて奏^{そう}以^も家^け

事將^{こと}乎^や其人^{そのひと}是^{こゝ}犯^{つと}之^の也^{なり}○
○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし

○ 後^{のち}に天下^{てんか}を犯^{つと}す者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

○ 凶^{よこ}悪^{あく}無^なき法^{はふ}庭^{てい}に遺^いす者^{もの}ハ ○ 殺^{ころ}す人^{ひと}を殺^{ころ}す

名^な枕^{まくら}に形^{かたち}奉^{ほう}達^{たつ}は是^{こゝ}犯^{つと}之^の也^{なり}○
○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし

依^よて探^{たん}管^{くわん}以^も典^{てん}奪^{だつ}被^ら執^{しつ}ハ 奏^{そう}事^{こと}後^{のち}庭^{てい}

中^{なかつ}家^け形^{かたち}其^{その}實^{じつ}方^{かた}法^{はふ}規^き式^{しき}不^ふ二^に符^ふ計^{けい}也^{なり}其^{その}

名^な紙^し其^{その}紙^し老^{らう}紙^し上^{じやう}法^{はふ}上^{じやう}落^{らく}時^{とき}也^{なり}及^{およ}及^{およ}

罪^{つと}可^べし^め也^{なり}○
○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし

○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし
 ○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし
 ○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし

○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし
 ○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし
 ○ 依^よて之^のと行^なハ 被^ら可^べし

八月七日

氏初^{うぢはつ}を彌^や田^{でん}系^{けい}

後上 大掾殿

去比御札不預

八月七日

民部の太輔田

原

謹上 大掾殿

候ふ之憂他

行之間則御返

事と申さ不候

ふ之條本意と

失い畢ハ抑將

軍家若宮御參

詣之事供奉の

日記或方小借

用せし被候ふ

後日態と進ハ

可き也其躰殆

關東鶴ヶ岡ハ

幡宮の參詣ハ

務の恩賞方法
規式勝て計ふ
可く不也
其旨趣具紙
上に盡し難し
御上洛之時心
之及ふ所粗申
さ令い可候
ふ也恐恐謹言

後上 大掾殿
去比御札不預
八月七日
民部の太輔田
原
謹上 大掾殿
候ふ之憂他
行之間則御返
事と申さ不候
ふ之條本意と
失い畢ハ抑將
軍家若宮御參
詣之事供奉の
日記或方小借
用せし被候ふ
後日態と進ハ
可き也其躰殆
關東鶴ヶ岡ハ
幡宮の參詣ハ
超過せ令の候

延川登主

三十一

從當坐の神樂
朝倉返の詠物
拍子の本末と
調一賽礼の奠
如在之儀と致
以神感之興嚴
重之態誠小以
掲焉也耳目之
及ふ所羌筆に
違ら不只高察
と仰ぐ而已謹
言
八月十三日
散位長谷部

謹上
大内記殿
御法談之後常
小參仕言上せ
令じ可き之旨
相存す之虞
公私の恩勤小
依て懈怠せ令
いふ之條越度
之至り佛意冥
慮小背き後悔
之外他無く候
ふ抑近日佛事
大法會と執行

庭言謹言

作押近可執以佛事大法會より持法
貴寺七老堂より尚日唱守師方儀被
良具の老種河清客頭首持老徳山
下進方老名興下山

○梅意の二字ももてるあり
○誠意の誠はこゝろの意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり
○冥意の冥は幽暗の意なり

可有湯浴香像老精舎一字之平塔
染入堂堂塔經老種梅合食寺儀所
熱つ二階湯浴香像老精舎一字之平塔
梅山像堂堂塔經老種梅合食寺儀所
去經像堂一幅老法書画對老寫指
寫多經抄後設老漢補經主初以秘

勤行一陀羅尼
唱滿一真言
念誦以稱名
念佛九旬供花
一夏持齋禪律
抖擻の行人等
攝待千僧供養
非人施行等也
但一佛布施并
小被物録物等
用意輕賤也只
御助成小擬
て之と執行せ
ら被可一御讚

嘆之儀の非は
と雖啓白許と
以一磬と鳴ら
さ被可く候ふ
也一向小御哀
憐と仰ぐ恐惶
敬白
九月十三日
沙弥
進上
侍者御中
芳札之旨披見
せ令め候ひ託
ぬ誠小御給仕

庚言言言

多贊嘆成以世白存の爲一磬の也

一向佛法衣憐心修教白

物うり回抄云被物の箱布の敷を引とり小祿物の袖を引とり○啓白を
經のりてをうりてしむる○哀憐はあつれをわつれむる○致白

すといふらん

九月十二日

沙弥

進上 侍者御中

○沙弥侍者ともに
前々素ふんてり

芳札之名。今被の人は花藏と有法結住

名被持た秋。今憐息一條。凡情を業

障也。尤も法謝也。唱導事奉り入作

秀隆を切手興て法も通由作

○業障はその方の業によつて障りあるをいふ○手興はかかえりて

長指の爲りて被進祇園軒文佛像經

卷廣等も不有子細堂塔依養每

法義入符と相違入法今儀式に有法

彼老を府人の道小。若道道之復可被

庭川 燈注

有る可き之旨
誓願せし被る
歎今于懈怠之
條凡情常の業
障也尤謝せし
被可き者也唱
導の事申入
止候ふ之慶其
期小臨て手興
迎て給ふ可
き由仰候ふ
善根の事兼日
諷誦願文と進
ず被可一佛

像經卷讚嘆者
子細有る可
ら不堂塔供養
并小法華八講
者大法會の儀
式不相當了歎
法服登高座大
行道等有る可
一聖道の名僧
と以其節と遂
けら被可一講
師讀師註記豎
者證義探題并
小唄散花梵音

遂に長法師後師法記聖者梵者採
類每唄散花梵音揚杖對揚以就師

小宗弘明傳也 ○飛浦志のりてきく候わくはううと云
○後文ハ佛堂の儀ハ初於する候と記し

○法花ハ佛の法華の法華同答候うう四音の段ハ
十之内同者ハ人音者ハ人音 ○定考ハ佛堂の時儀師のわうう

○大行を佛堂とせうく候候しうと云 ○後師ハ後時儀言
とて候く ○後師ハ後と儀ハ後とて候く候とて候く候とて候く

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○聖者ハ後師の首座の位なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり ○後師ハ後師なり

尚東堂西堂并
小知事方小都
守監守副守浴
主典座直歲都
管都聞修造主
堂主淨頭頭首
方小者前堂後
堂の兩首座書
記藏主維那知
客燒香の侍者
書狀請客湯藥
衣鉢等の侍者
此外耆舊之諸
僧塔頭の坊主

旦過之僧山主
庵主沙弥喝食
行者參頭副參
望參供頭堂司
庫司炭頭調菜
人工者尼部出
納山守木守門
守火鈴振等也
律僧者長老知
事典座沙弥八
齋戒の人工法
師等也
聖道者一寺の
檢校執行別當

人とのわく... 燒香の時香合とりの役なり
書状の出管とく役なり
湯茶の湯茶のりとのり
衣鉢の衣鉢と司の燒香より
此外耆舊之

諸僧塔頭坊主止之僧山主都主沙

弥喝食の老素頭副素を奉仕の者

司庫司炭頭調菜人工者尼部出納山

守木守門方小者前堂後堂の兩首座書

記藏主維那知客燒香の侍者書狀請客湯藥

衣鉢等の侍者此外耆舊之諸僧塔頭の坊主

旦過之僧山主庵主沙弥喝食行者參頭副參

望參供頭堂司庫司炭頭調菜人工者尼部出

納山守木守門守火鈴振等也律僧者長老知

事典座沙弥八齋戒の人工法師等也聖道者一寺の

檢校執行別當

檢校執行別當

檢校執行別當

檢校執行別當

其外有職僧綱
の僧徒等猶以
禪家方者相伴
暹齋之僧倍堂
外僧堂の輩聖
道者從僧驅使
同朋推參之道
俗臨時之客人
人數小任せ點
心と云ひ布施
物と云ひ臘次
と糺し上下之
品と注し給ふ
可き也

諸事才覺之
外憑し所無し
心底と貽と不
之と示と被者
尤以本望也兼
て又先日申し
入る所之掛塔
の僧の事相違
無く却許容小
預り候ハ者畏
ルベリ候ふ毎
事參入之次と
期に恐恐謹言
十月三日

寺皆有三綱○承任官用云々
下於之或況云承任の挂持云々
寺皆有職僧綱僧徒
任之後任諸國講談師其上座寺主任講師都維那任讀師諸大

外僧堂の輩聖
道者從僧驅使
同朋推參之道
俗臨時之客人
人數小任せ點
心と云ひ布施
物と云ひ臘次
と糺し上下之
品と注し給ふ
可き也
○暹齋の儀は
○僧徒の儀は
○掛塔の儀は
○掛塔の儀は
○掛塔の儀は

十月三日
十月二日
監
諸事才覺之
外憑し所無し
心底と貽と不
之と示と被者
尤以本望也兼
て又先日申し
入る所之掛塔
の僧の事相違
無く却許容小
預り候ハ者畏
ルベリ候ふ毎
事參入之次と
期に恐恐謹言

庭川燈注

三十一

波平江帶各一

此外帽子沓襪

子柱杖脚榻手

巾布衫鉢盂巾

脚布筋匙刷木

綿の肚脱蒲團

花瓶香爐香合

香匙火筋蠟燭

竹篋曲糸法被

打敷水引等頭

首以下小加へ

ら被可きの布

施也

點心者水織温

糟糟鷄鷓羹羊

羹猪羹鹽腸羹

羊羊羹砂糖羊

羹鯉飽饅頭索

麩菓子麵卷餅

温餅

菓子者柚柑柑

子橋熟瓜澤胎

子等時の景物

小随ふ可き也

伏兔曲煎餅燒

餅菜興米素餅

精粽等も客料

度訓語

七十一

沓襪子柱杖脚榻手巾布衫鉢盂巾

脚布筋匙刷木綿の肚脱蒲團

花瓶香爐香合香匙火筋蠟燭

竹篋曲糸法被打敷水引等頭

首以下小加へら被可きの布

點心者水織温糟糟鷄鷓羹羊

羹猪羹鹽腸羹羊羊羹砂糖羊

羹鯉飽饅頭索麩菓子麵卷餅

温餅菓子者柚柑柑子橋熟瓜澤胎

子等時の景物小随ふ可き也

伏兔曲煎餅燒餅菜興米素餅

精粽等も客料

沓襪子柱杖脚榻手巾布衫鉢盂巾

脚布筋匙刷木綿の肚脱蒲團

花瓶香爐香合香匙火筋蠟燭

竹篋曲糸法被打敷水引等頭

首以下小加へら被可きの布

點心者水織温糟糟鷄鷓羹羊

羹猪羹鹽腸羹羊羊羹砂糖羊

客料に被用云

七十四

の爲用意せり
被可

脚齋粥以前小
調へ置り被可

茶具者建蓋
天目胡蓋饒州

の茶碗并小木
椀茶器八入の

盆一對茶瓢茶
筥茶桶茶巾茶

杓免足湯瓶罐
子桶茶茶磨等

并小椀折敷豆
子搦子追膳三

の膳の折敷同
く副へ整へら

被可き也

脚齋の汁者豆
腐羹辛辣羹雪

林菜并小薯蕷
腐笋蘿蔔山葵

の寒汁等也

菜者織羅菴煮
漆の牛房昆布

搗布烏頭布荒
布黒煮の落筋

薺蕪酢漬の茗
荷薦の子乃蒸

庭訓語

擦板俗小サス云々
○柑子の柑子の也云々

熱瓜の甜瓜云々
○伏兔の餅の餅の餅

順和名抄云々
○曲の本字櫻餅

和名云漢語抄云々
○桑條の桑條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

○茶條の茶條
○茶條の茶條

庭訓語

○茶條の茶條
○茶條の茶條

物茹物ハ茄子
 の酢菜胡瓜乃
 甘漬納豆煎豆
 茶苞園豆芥薺
 差酢の和布青
 苔神馬藻の曳
 干甘苔鹽苔酒
 煎の松茸平茸
 の雁煎等休小
 隨て之と引く
 可
 齋以後の菓子
 者生栗搗栗串
 柿熟柿干棗花

藜子杖推菱田
 烏子覆盆子百
 合草零陵子御
 自愛小隨之
 と用ふ可
 請暇病暇寮暇
 暫暇の僧衆定
 浦山敷く思
 一召さ被可死
 歟點心料送り
 進ぐ被者無
 遮之御計ひ為
 る可也所望
 小依て粗之と

牛房昆布搗布烏匹布荒布も煮
 落筋蘇蘇酢漬若若薦子茶物茹
 物茄子酢菜瓜甘漬納豆茶葉園茶
 苞園豆芥薺差酢和布青苔神馬藻
 曳干甘苔鹽苔酒煎の松茸平茸の
 雁煎等休小隨て之と引く可
 齋以後の菓子者生栗搗栗串柿熟
 柿干棗花

材熟折干老花梨子杖推菱田烏子
 廣盆子百合草零陵子御自愛之
 用之
 浦山敷く思
 一召さ被可死
 歟點心料送り
 進ぐ被者無
 遮之御計ひ為
 る可也所望
 小依て粗之と



湯治
針治湯治術治
養生之達者殊
小大切小候ふ
此邊小候ふ輩
者脚氣中風上
氣頭風黃痢赤
痢内痔内癰疔
腫物瘡病咳病
疾齒膜等者形
の如く見知り
候ふ歟癩狂癩

病傷寒傷風虛
勞等者才覚無
候ふ
同く者擣從乃
合藥瀉藥補藥
等本方お任せ
名醫の加減と
以一劑と合
之と服せ令め
んと欲は此條
尤本望也禁好
物の注文合食
禁乃日記藥殿
の壁書お任せ

孤獨の... 湯治湯治術治養生之達者殊
大切小候ふ輩
凡黃痢赤痢内痔内癰疔腫物瘡病
咳病痰喘膜等者形
癩病傷寒傷風
○針治ハ... 湯治湯治
○癩病... 癩病
○痰喘... 痰喘
○膜等... 膜等

○抑也... ○癩病... ○痰喘... ○膜等...
合藥瀉藥補藥本方お任せ
名醫の加減と
以一劑と合
之と服せ令め
んと欲は此條
尤本望也禁好
物の注文合食
禁乃日記藥殿
の壁書お任せ

三川登註

三十八

寫し給ふ可く候ふ萬端筆と

馳せ難し併面拜と期は恐恐謹言

十一月十二日

主税の助秦

謹上

主計の頭殿

玉章と披ら嚴旨と窺ひ御用望既分明也仰の如く當道の名醫者奔走有

了可き也推侍醫の邊小一流の書籍と讀明り療養共小名譽の達者拔群之仁候へ

製餅



但し渡唐之船中絶小依て藥種高直之間大

白湯を淋痛せしむるの類き

十一月十二日

謹上 主計の頭殿

主税の助秦

○主計の頭殿に候はせしむる御用望既分明也仰の如く當道の名醫者奔走有

了可き也推侍醫の邊小一流の書籍と讀明り療養共小名譽の達者拔群之仁候へ

製餅

但し渡唐之船中絶小依て藥種高直之間大

了可き也推侍醫の邊小一流の書籍と讀明り療養共小名譽の達者拔群之仁候へ

製餅

但し渡唐之船中絶小依て藥種高直之間大

了可き也推侍醫の邊小一流の書籍と讀明り療養共小名譽の達者拔群之仁候へ

製餅

但し渡唐之船中絶小依て藥種高直之間大

了可き也推侍醫の邊小一流の書籍と讀明り療養共小名譽の達者拔群之仁候へ

庭訓證註

七十九

藥秘藥者斟酌
の事小候ふ和
藥と用ひり被
者參せ令ん可
き也

五木八草之湯
治風呂温泉等
指せる費無
候ふ

凡房内の過度
蜀酒の酩酊睡
眠の昏沈行儀
の散動食物の
飽満所作の辛

勞意慕の辛苦
長途の窮屈旅
所の疲勞閑居
の朦氣愁歎の
勞傷瀾乏の失
食深更の夜食
五更の空腹鹽
増の飲水淺味
の熱湯寒気の
薄衣炎天の重
服皆以禁忌之
事に候ふ也御
心得有て養生
せら被可き也

と斟酌するに被り和茶とて今兼也

和茶とて日本の茶を云ふ

五木八草之湯

凡房内の過度

蜀酒の酩酊睡

眠の昏沈行儀

の散動食物の

飽満所作の辛

勞意慕の辛苦

長途の窮屈旅

所の疲勞閑居

の朦氣愁歎の

勞傷瀾乏の失

食深更の夜食

五更の空腹鹽

増の飲水淺味

の熱湯寒気の

薄衣炎天の重

服皆以禁忌之
事に候ふ也御
心得有て養生
せら被可き也

庭川監註

八



才覺の爲示
給ふ可也也
古の爲巨細奉
度候ふ何
様面謁と遂げ
心事啓達以可
也恐恐謹言
十二月三日
隼人の佐在原
謹上
越前の守殿

御消息忽披
珍重珍重甚玉
珠と得るが如
參拜小非に
人者之と謝
難抑遠之
國輒音信と通
ト難きに依て
思ひ乍光陰と
馳以遺恨深重
也何の時々の
と謝せ人即案
内と啟す可き
之處路次の疲

目録とつくりて官次友中は友次友目録一覽の上りて友次友
りて友次友目録とつくりて又判友代の代の字のりて子細うし様中
りて判友と院家とて判友代と典代とて様中の友と院家の官
と務札するを以て代の字と如して院の判友と典と取以て代のりて
よむと友次友ふりて
たすけとあるの義なり
為才定て月結の書
古巨細奉友の何様面謁を奉る様
事は心と謹言
細く小なり
十二月三日
隼人佐原
謹上 越前守殿

御消息忽披
珍重珍重甚玉
珠と得るが如
參拜小非に
人者之と謝
難抑遠之
國輒音信と通
ト難きに依て
思ひ乍光陰と
馳以遺恨深重
也何の時々の
と謝せ人即案
内と啟す可き
之處路次の疲

消息ハ礼記注陽生爲息陰死爲消廣義小消息ハ音信也又文選注李善
注消言注也車已往故消息言來也使無所求故曰息也云陰陽生死性來
すと消息と云ふ小今世の性來と消息と云ふは判性來の性來
來は消息と云ふ小今世の性來と消息と云ふは判性來の性來
陸日月と日月と送るの義也○消息ハ音信なり○夜勞ハ
つれづれと○夜勞ハ音信なり○夜勞ハ音信なり

庭訓讀言

而土貢之現利
巨多也萬事雅
意小任せ一と
而違乱無し心
事多しと雖紙
面小尽し難し
併後日と期に
恐恐謹言

十二月三日

進上 隼人の佐殿

越前の守磯部

庭訓往來澄江大成

林山先生墨土帖手本類

追刺出板

真字

五體 和漢朗詠集 二帖

兩點庭訓往來

繪抄

改正 音訓 四書 全帙

兩點古状拵

頭書 構狀

孫子國字辨 中本七卷 同薄用二冊

芝學堂先生手本向

追刺出板

運筆自在階子

千字文 唐詩選 其他追刺

書物地本繪問屋

山口屋藤兵衛板

